

授業科目名	フードサービス概論				
担当教員名	佐藤 恵子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

食のエキスパートとして活躍するためには、技術の習熟及び提供するフードサービスの価値を高めるホスピタリティが求められている。しかし、IT技術による情報伝達が発達した現代社会において経験的に学ぶ機会は少なく、ビジネス上の自己表現・コミュニケーションを体系的・実践的に学ぶ機会もあまりない。そこで本授業では、食のエキスパートとして活躍するために、サービス業務に対する心構え、対人理解、応対の技術、態度・振舞い等を実践的な実技を通して習熟させることを目的とする。レベル設定としてサービス接遇検定2級を目指す。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	サービス業務の一般知識	人間力のある対人応対ができる
汎用的な力		
1．DP8.意思疎通		他人の意見を尊重し、且つ自分の主張を伝えることができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
振り返りテスト	： 振り返りテスト期間中の内容を範囲とした試験を実施 40%
小テスト	： 指定した内容を範囲とした小テストを講義中に実施 30%
授業への取り組み方	： 教員との授業中のやり取り、及びビジネススーツ着用などの規則遵守を評価します 30%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田野 直美	・ ビジネスでの常識集	・ トータルマナー (株)	・ 年
実務技能検定協会	・ サービス接遇検定実問題集1-2級	・ 早稲田教育出版	・ 年

### 参考文献等

サービス接遇検定受験ガイド2級／公益財団法人実務技能検定協会／早稲田教育出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室

### 授業計画

第1回	<b>授業の進め方の説明（コンテンツと狙い）</b> フードサービスの観点から、授業内でのマナーや受け答えを考える。 1. マナーとは 2. 始業、終了のあいさつの仕方 3. 授業中の姿勢、態度 4. 名指しされた時の答え方	日常生活での挨拶・お辞儀の意識付けと訓練	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---	----------------------	-------------------------

第2回	<b>①検定対策（サービススタッフの資質）②日常の立居振舞い</b> ①サービス接遇ケーススタディ（サービススタッフの資質） ②立ち姿、座り姿、おじぎ（実技）	サービス接遇検定実問題集2級（サービススタッフの資質）日常生活での挨拶・お辞儀の意識付けと訓練	4時間
第3回	<b>①検定対策（専門知識）②コミュニケーションの第一歩 あいさつ</b> ①ミニテスト（サービススタッフの資質）・サービス接遇ケーススタディ（専門知識） ②あいさつの重要性・必要性・スマイルエクササイズ	サービス接遇検定実問題集2級（専門知識）日常生活での挨拶・お辞儀の意識付けと訓練	4時間
第4回	<b>①検定対策（一般知識）②社会人としての常識度チェック</b> ①ミニテスト（専門知識）・サービス接遇ケーススタディ（一般知識） ②常識問題10問	サービス接遇検定実問題集2級（一般知識）	4時間
第5回	<b>①検定対策（対人技能）②常識度チェック解答、解説</b> ①ミニテスト（一般知識）・サービス接遇ケーススタディ（対人技能） ②常識問題の解答・解説	サービス接遇検定実問題集2級（対人技能）	4時間
第6回	<b>①検定対策（実務技能）②第一印象 服装身だしなみ</b> ①ミニテスト（対人技能）・サービス接遇ケーススタディ（実務技能） ②服装・身だしなみのポイント・チェック	サービス接遇検定実問題集2級（実務技能）	4時間
第7回	<b>検定対策（模擬試験）</b> ミニテスト（実務技能）・サービス接遇検定模擬試験 解答・解説	サービス接遇検定試験直前 総復習	4時間
第8回	<b>①1分間スピーチ ②自己表現Ⅰ 敬語の使い分け</b> ①自己紹介のスピーチ（14～15名） ②自己表現Ⅰ <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい声の出し方</li> <li>・敬語の種類</li> <li>・立場に応じた言葉遣い</li> </ul>	毎日、「立場に応じた言葉遣い」の表の唱和	4時間
第9回	<b>①1分間スピーチ ②自己表現Ⅱ 敬語の練習問題</b> ①自己紹介のスピーチ（14～15名） ②自己表現Ⅱ <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬称</li> <li>・クッション言葉・婉曲表現</li> <li>・敬語の練習問題</li> </ul>	敬語の練習問題 「自己PR」を考えてくる	4時間
第10回	<b>①1分間スピーチ ②自己表現Ⅲ 自己紹介と他人を紹介</b> ①スピーチ「自己PR」（5～6名） ②自己表現Ⅲ <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介のポイント</li> <li>・他人の紹介の仕方（実技）</li> </ul>	自己紹介の練習	4時間
第11回	<b>①1分間スピーチ ②電話対応Ⅰ 基本</b> ①スピーチ「自己PR」（5～6名） ②電話対応Ⅰ <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話のかけ方・受け方・取り次ぎ方（ロールプレイング）</li> <li>・不在処理・伝言の聞き方（ロールプレイング）</li> </ul>	毎日、滑舌の練習	4時間
第12回	<b>①1分間スピーチ ②電話対応Ⅱ 社会人としての対応</b> ①スピーチ「自己PR」（5～6名） ②電話対応Ⅱ 就職活動での電話対応（ロールプレイング）	毎日、滑舌の練習	4時間
第13回	<b>①1分間スピーチ ②心のもったもてなしⅠ 訪問と受付、案内のマナー</b> ①スピーチ「自己PR」（5～6名） ②心のもったもてなしⅠ <ul style="list-style-type: none"> <li>・会社訪問のマナー（ロールプレイング）</li> <li>・受付のマナー（ロールプレイング）</li> <li>・廊下、階段の案内（ロールプレイング）</li> <li>・ドアの扱い方（ロールプレイング）</li> <li>・エレベーターでのマナー（ロールプレイング）</li> </ul>	毎日、スマイルエクササイズの訓練	4時間
第14回	<b>①1分間スピーチ ②心のもったもてなしⅡ 茶菓のマナー</b> ①スピーチ「自己PR」（5～6名） ②心のもったもてなしⅡ <ul style="list-style-type: none"> <li>・茶菓のもてなしのポイント</li> <li>・盆、茶托、茶碗のセットの仕方</li> <li>・お茶の出し方 3種（ロールプレイング）</li> </ul>	お茶の出し方の練習	4時間
第15回	<b>振り返りテストと解説</b> 振り返りテストを行い、解説を行う	今期学んだことの総復習を行う	4時間

授業科目名	キャリアディベロップメント				
担当教員名	佐藤 恵子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

フードサービス概論に続き、サービス接客検定準1級を目指す。就職活動に必要な内容（履歴書の書き方、礼状の書き方、サービス接客検定における面接の訓練、就職の際の面接室における立ち居振る舞いの訓練、面接での質問内容の返答）を学ぶ。社会人になって実際に活用できるよう、実技やロールプレイング中心の授業を実施する。毎回の授業にて数名ずつ1分間スピーチを実施し、思っていることを相手に伝える言葉の瞬発力と表現力を養う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP1. 幅広い教養やスキル	具体的内容： 状況把握力と発信力	目標： ビジネスにおいて自分が求められているものを把握し、適切な情報を分かりやすく伝える事ができる。
汎用的な力 1 . DP9. 役割理解・連携行動		言葉づかいや身だしなみ、その他TPQを踏まえたビジネスマナーに基づいた行動ができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
振り返りテスト	： 振り返りテスト期間中の内容を範囲とした試験を実施 40%
小テスト	： 指定した内容を範囲とした小テストを講義中に実施 30%
授業への取り組み方	： 教員との授業中のやり取り、及びビジネススーツ着用などの規則順守を評価 30%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田野 直美	・ ビジネスでの常識集	・ トータルマナー (株)	・ 年
実務技能検定協会	・ サービス接客検定実問題集1ー2級	・ 早稲田教育出版	・ 年
大阪成蹊短期大学 就職部	・ 就職ガイドブック	・ (株) ベネッセi-キャリア	・ 年

### 参考文献等

サービス接客検定受験ガイド2級/公益財団法人 実務技能検定協会 編/早稲田教育出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室

### 授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	<b>①ガイダンス（授業内容・進め方） ②就職活動について</b> 1. 授業中の姿勢・態度チェック 2. 就職活動とは？ 3. サービス接遇準1級面接試験について（スマイルエクササイズ）	就職ガイドブックP6～16を熟読 スマイルエクササイズの訓練	4時間
第2回	<b>①サービススタッフの資質 ②サービス接遇検定対策1 検定概要</b> 1. スマイルエクササイズ訓練 2. 日常の立ち居振舞い、笑顔での会話、案内のしぐさ、前傾姿勢での対応（ロールプレイング）	日常生活での立ち居振舞いの訓練 スマイルエクササイズの訓練	4時間
第3回	<b>①自己分析 ②応接室・乗り物のルール</b> 1. 過去と現在の自分を見つめる（就職ガイドブックP17～22） 2. 自己分析シート作成（就職ガイドブックP23） 3. 応接室での席次、タクシー、電車などの席次（ビジネスでの常識集P25、P30～31）	自己分析シート完成	4時間
第4回	<b>①キャリアプランニング ②サービス接遇検定対策2 準1級試験ビデオ視聴</b> 1. キャリアプランニングシートの作成（就職ガイドブックP24～25） 2. 笑顔での会話、案内のしぐさ、前傾姿勢での対応（ロールプレイング）	キャリアプランニングシート完成	4時間
第5回	<b>①自己PR ②サービス接遇検定対策3 自己紹介</b> 1. 自己PRシート作成（就職ガイドブックP26～31） 2. サービス接遇検定の自己紹介と「基本言動1～4」（1名ずつ15名ロールプレイング）	自己PRシート完成 就職面接での自己PRを考えてくる サービス接遇検定の自己紹介と「基本言動1～4」の訓練	4時間
第6回	<b>①自己PRのスピーチ ②サービス接遇検定対策4 基本言動</b> 1. 就職面接での自己PR（1名ずつ15名のスピーチ） 2. サービス接遇検定の自己紹介と「基本言動1～4」（1名ずつ15名ロールプレイング）	就職面接での自己PRを考えてくる サービス接遇検定に自己紹介と「基本言動1～4」の訓練	4時間
第7回	<b>①自己PRのスピーチ ②サービス接遇検定対策5 接客応答基本</b> 1. 就職面接での自己PR（1名ずつ15名のスピーチ） 2. サービス接遇検定「接客応答A～C」（1名ずつ15名ロールプレイング）	サービス接遇検定「接客応答A～C」の訓練	4時間
第8回	<b>①履歴書の書き方 ②サービス接遇検定対策6 接客応答実践</b> 1. 履歴書の書き方（就職ガイドブックP68～71） 2. サービス接遇検定「接客応答A～C」（1名ずつ15名ロールプレイング）	履歴書の完成 サービス接遇検定「接客応答A～C」の訓練	4時間
第9回	<b>①エントリーシート ②サービス接遇検定対策7 接客対応基本</b> 1. エントリーシートの書き方（就職ガイドブックP72～75） 2. サービス接遇検定「接客対応」（1名ずつ15名ロールプレイング）	サービス接遇検定「接客対応」の訓練 1分間スピーチ「学生生活で、特に頑張ったこと、印象に残っていること」を考えてくる	4時間
第10回	<b>①1分間スピーチ ②メールでのエントリーの仕方 ③サービス接遇検定対策8 接客対応実践</b> 1. 1分間スピーチ「学生生活で、特に頑張ったこと、印象に残っていること」（5名スピーチ） 2. メールでのエントリーの仕方（就職ガイドブックP102～103） 3. サービス接遇検定「接客対応」（1名ずつ15名ロールプレイング）	サービス接遇検定「接客対応」の訓練 1分間スピーチ「アルバイト経験」を考えてくる	4時間
第11回	<b>①1分間スピーチ ②資料請求のはがきの書き方 ③サービス接遇検定対策9 入室から退出</b> 1. 1分間スピーチ「アルバイト経験」（5名スピーチ） 2. 往復はがき、はがきの表書き、封筒の書き方（実技） 3. サービス接遇検定（入室からの流れ）（1名ずつ15名ロールプレイング）	サービス接遇検定（入室からの流れ）の訓練 1分間スピーチ「学校の校風、特色」を考えてくる	4時間
第12回	<b>①1分間スピーチ ②履歴書の添え状、礼状の書き方 ③サービス接遇検定対策10 総復習</b> 1. 1分間スピーチ「学校の校風、特色」（5名スピーチ） 2. 履歴書の添え状、礼状の書き方（就職ガイドブックP108～109） 3. サービス接遇検定（入室からの流れ）（1名ずつ15名ロールプレイング）	サービス接遇検定（入室からの流れ）の訓練	4時間
第13回	<b>就職マナー（I） 面接の重要ポイント</b> 1. 面接試験の流れ、種類（就職ガイドブックP80～81） 2. 面接シミュレーション（自己紹介・入退室の仕方・椅子での立ち座り）ロールプレイング 3. 模擬面接（5名ずつ3グループロールプレイング）	面接室での立ち居振舞いの訓練 面接での質問内容に答えられるように考えてくる	4時間
第14回	<b>就職マナー（II） 面接の質疑応答</b> 模擬面接（5名ずつ3グループロールプレイング）	面接での立ち居振舞いの訓練 面接での質問内容に答えられるように考えてくる	4時間
第15回	<b>振り返りテストと解説</b> 振り返りテストを行い、解説を行う	今期学んだことの総復習を行う	4時間

授業科目名	テーブルコーディネート実習Ⅱ				
担当教員名	土田 彩華				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

食空間コーディネートの基礎知識を学び、食空間演出のためのスキルを磨いていく。器や道具、色彩など食空間周辺のアイテムや料理との関係を知り、快適な食空間の演出を考えていく。この授業を受けることで、理論の修得とともに食空間コーディネートの実践を行い、食空間コーディネーター3級資格を取得するスキルをつけていく。テーブルコーディネートの基本から応用までをテーブルデザインを実際に作成した上で実施する。フラワーアレンジメントの実技も行う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	食空間コーディネート力	理論とコーディネートに必要な組立てる力を付ける。食空間コーディネーター3級資格を取得するスキルも付ける
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	カラーワークの作成、テーブルコーディネートの基礎から応用までの実施	実技を通し、コーディネートに必要な技術、スタイリングを身につける
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自ら課題、テーマを発見する力を付ける
2．DP5. 計画・立案力		コンセプト、テーブルコーディネートを組み立てる力を付ける。グループ製作に関しては、コミュニケーション能力、協調性を付ける
3．DP6. 行動・実践		計画能力とそれを実現する行動力を付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題 20%	： 色彩計画はカラーワーク作成での理解度を、テーブルコーディネートでは企画力・表現力を、全体の提出物の完成度も含め10段階で評価する。
グループ製作への取組 10%	： チームでのコミュニケーション能力、協調性、積極的に行動出来ているかを10段階で評価する。
チェックシート 40%	： 協会指定のチェックシートを使用し、理解度を評価する。
授業への取組状況 30%	： 積極的に学習しようとしているかを評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
NPO法人食空間コーディネート協会・	TALK食空間コーディネーターテキスト3級	株式会社優しい食卓	2016年

### 参考文献等

2016年度版フードコーディネーター教本3級/日本フードコーディネーター協会/柴田書店

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

## 授業計画

		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p><b>食空間コーディネート総論</b></p> <p>食空間コーディネート概論を学ぶ。「食空間コーディネート」とはどういうことなのかを、「食空間の在り方」を8つの要素を通し理解し、コーディネートの企画に必要な基礎理論「三間、3K、三風」の意味と重要性を理解する。具体例をデモンストレーションで説明し、グループ実習では、セミフォーマルのセッティングを作成し、コンセプトを考えてみる。</p>	<p>基礎理論の復習と、実習で作成したコーディネート写真を提出用の指定の用紙に張り、コンセプトを記入完成させる</p> <p>1時間</p>
第2回	<p><b>卓育</b></p> <p>食育基本法について、食育と卓育の概論を学ぶ。子どもの食事のあり方と卓育の役割、重要性を理解する。グループ実習にて、手作りネームカードなどの作成を行い、卓育をテーマにしたテーブルコーディネートを作成し、コンセプトを考えてみる。</p>	<p>食育と卓育の復習し、実習で作成したコーディネート写真を提出用の指定の用紙に張り、コンセプトを記入完成させる</p> <p>1時間</p>
第3回	<p><b>テーブルコーディネート・アイテムⅠ-① (和食器)</b></p> <p>陶磁器の歴史、分類、製造過程、取扱い方法を学ぶ。和食器での歴史、種類と素材、特徴を説明。実際に実物を見て触り実感し、それぞれの素材や種類、使う目的を理解する。グループ実習にて、和食の基本形のセッティングを作成。コンセプトを考えてみる。</p>	<p>陶磁器の知識を復習し、家庭での食器を点検する。実習で作成したコーディネート写真を提出用の指定の用紙に張り、コンセプトを記入完成させる。</p> <p>1時間</p>
第4回	<p><b>食空間コーディネート・アイテムⅠ-② (洋食器)</b></p> <p>ヨーロッパ・日本における洋食器の歴史を学ぶ。洋食器の種類と使い方、基本アイテム、特徴を説明。実際に実物を見て触り実感し、それぞれの素材や種類、使う目的を理解する。テーブルリネンの素材と用途も学ぶ。実習では、テーブルフラワーアレンジメントの基本の型を生花を使って作成し、デモンストレーションテーブルにて撮影する。</p>	<p>実習で作成したフラワーアレンジにあったコーディネートを考える。作成したコーディネート写真を提出用の指定の用紙に張り、コンセプトを記入完成させる。</p> <p>1時間</p>
第5回	<p><b>食空間コーディネート・アイテムⅠ-③ (ガラス、カトラリー他)</b></p> <p>ガラス食器・漆器・竹・プラスチック・箸・カトラリーなどの道具類についての知識と使い方を理解する。コンセプトを考え、洋食器フルコースのセッティングをマスターする。</p> <p>色彩・カラーシステム・配色テクニック・テーブルの色使いや行事の色の知識を知る。テーブルクロス等の素材や用途について種類も含めて理解する。</p>	<p>家庭において、洋のセッティングを実施。実習で作成したコーディネート写真を指定の用紙に張り、コンセプトを記入完成させる。</p> <p>1時間</p>
第6回	<p><b>食空間コーディネート・アイテムⅡ (フィギュア、キャンドル、センターピース)</b></p> <p>フィギュア・照明・キャンドル・センターピース (フラワー装飾) について学ぶ。チェックシートによる復習をする。</p>	<p>商業施設(店)での照明やディスプレイの調査分析</p> <p>1時間</p>
第7回	<p><b>色彩</b></p> <p>カラーシステムを知る。色相やトーンを知り、配色テクニックを学ぶ。テーブルコーディネートでの色の影響力を知り、季節や行事の色を学ぶ。実習では、カラーワークの用紙に色チップを張ることで、実際のテクニックを実感する。</p>	<p>カラーワークの完成</p> <p>1時間</p>
第8回	<p><b>おもてなし料理① (日本料理)</b></p> <p>日本料理 (本膳料理・懐石料理・会席料理) の歴史と様式と献立、日本での西洋料理の歴史、セミフォーマルなセッティングとメニュー構成を学ぶ。和洋の食事のマナー・プロトコルを学び、席次について理解する。グループ実習にてコンセプトを組み立て、和のテーブルコーディネートを完成させる。</p>	<p>日本での和洋両方の歴史やセッティングを復習。実習で作成したコーディネート写真を指定の用紙に張り、コンセプトを記入完成させる。</p> <p>1時間</p>
第9回	<p><b>おもてなし料理② (外国料理)</b></p> <p>4大中国料理の特色とのセッティングとマナーを知る。酒・飲料について学ぶ。チェックシートによる復習をする。</p>	<p>4大中国料理の特徴やセッティングを復習。</p> <p>1時間</p>
第10回	<p><b>食空間コーディネートの基本</b></p> <p>食空間のあり方を復習を交えながら再度理解を深める。空間演出のためのカラーコーディネート論、空間設計の基礎知識、照明計画の基礎知識と演出法を理解する。グループ実習では洋風のテーブルセッティングのフォーマルとカジュアルのセッティングの違いを知る。</p>	<p>家庭での空間設計や照明計画を分析する。</p> <p>1時間</p>
第11回	<p><b>一汁三菜のコーディネートの基本</b></p> <p>和食の家庭料理について学ぶ。グループ実習にて、コンセプトを考え一汁三菜のセッティングを作成する。</p>	<p>実習で作成したコーディネート写真を指定の用紙に張り、コンセプトを記入完成させる。</p> <p>1時間</p>
第12回	<p><b>日本の行事のテーマによるコーディネート</b></p>	<p>実習で作成したコーディネート写真を指定の用紙に張り、コンセプトを記入完成させる。</p> <p>1時間</p>

	日本の行事や歳時のコーディネートと行事食を知りテーブルデザインを考え実習する。グループ実習にて、五節句のテーブルを実習し、プランニングシートを作成する。		
第13回	<b>外国の行事のテーマによるコーディネート</b>  外国の行事や歳時のコーディネート実習グループ実習にて、外国の歳時の意味を知り、セッティングをする。	実習で作成したコーディネート写真を指定の用紙に張り、コンセプトを記入完成させる。	1時間
第14回	<b>パーティーのコーディネート</b>  ホームパーティーとアフタヌーンティについて学び、パーティー企画力を身につける。  グループ実習にて、コンセプトを考えティーパーティーのコーディネートとビュッフェテーブルコーディネートを作成する。	実習で作成したコーディネート写真を指定の用紙に張り、コンセプトを記入完成させる。	1時間
第15回	<b>総復習およびまとめ</b> チェックシートによる復習	今期学んだ授業内容の総復習を行う。	1時間

授業科目名	<b>栄養学 I</b>				
担当教員名	瀬川 悠紀子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

私たちは食べ物から様々な栄養素を摂取し、心身の健康を保持・増進している。この授業では、フードコーディネーター3級資格を取得し、将来食分野で活躍することを想定し、そのために必要な栄養学の導入として、各種栄養素（炭水化物・脂質・たんぱく質・ビタミン・無機質）の特性と機能についての基本を学び、正しい食生活とはどのようなものかを理解する。さらに学んだ知識を活用して食を通して健康を保持し、健康増進に役立てる力をつけることを目標とする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	栄養の専門知識	栄養素の特性や機能を理解し、バランスの良い食事の重要性を説明することができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		自分自身や、日本人の現在の食事の課題を見つけ出すことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
各回の小テスト	： 各回20点満点とする。得点の高いもの7回分の平均点で評価する。
振り返りテスト	： 栄養学 I で学んだ内容の振り返りテストを行う。
授業態度	： 授業内での積極性及び取組状況で評価する。
課題レポート	： 授業内で課題レポートを出し、10点満点で評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
城田知子	・ イラスト栄養学総論	・ 東京教学社	・ 2015年

### 参考文献等

日本食品成分表「五訂増補 食品成分表」／香川芳子／女子栄養大学出版部

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業の前後以外は、メールにて質問をうけます(アドレス：yukin.113@outlook.jp) メールには氏名と学籍番号を必ず入れてください。

### 授業計画

第1回

#### 栄養学とは

授業のすすめ方  
栄養の定義  
健康保持と栄養  
食物と栄養素

テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。

授業外学修課題にか  
かる目安の時間

4時間



第2回	<b>栄養学史</b> 栄養学のあゆみ 生命観と食養生 栄養素・微量栄養素の発見	配布プリントを復習する。	4時間
第3回	<b>健康と栄養</b> 健康を脅かす生活環境 栄養摂取の現状と食生活の推移	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第4回	<b>食生活と疾病</b> 食塩と高血圧 エネルギー過剰摂取と肥満・糖尿病 脂肪の過剰摂取と脂質異常症	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第5回	<b>エネルギー供給栄養素</b> エネルギーサイクル 摂取した栄養素の体内での働き	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第6回	<b>炭水化物について</b> もっとも重要なエネルギー源としての炭水化物 糖質の分類	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第7回	<b>脂質について</b> エネルギー源としての脂質 脂質の構造と分類	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第8回	<b>たんぱく質について</b> 生体における役割 たんぱく質の構成とアミノ酸	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第9回	<b>ミネラルについて</b> ミネラルの種類と働きについて 欠乏症と過剰症	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第10回	<b>ビタミン（水溶性）について</b> 水溶性ビタミンの種類と働きについて 欠乏症と過剰症	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第11回	<b>ビタミン（脂溶性）について</b> 脂溶性ビタミンの種類と働きについて 欠乏症と過剰症	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第12回	<b>機能性食品について</b> 機能性食品の種類や活用について	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第13回	<b>機能性非栄養成分について</b> 機能性非栄養成分の種類 働きと食品	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第14回	<b>水分について</b> 体内での水の働き 水分バランスと体内への影響	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第15回	<b>振り返りテストと解説</b> 栄養学 I で学んだ内容の振り返りテストを行い、解説を行う。	配布プリントとテキストを復習する。	4時間

授業科目名	<b>栄養学Ⅱ</b>				
担当教員名	瀬川 悠紀子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

栄養学Ⅰで学んだ各栄養素等の基礎的な知識をもとに、各栄養素が体内でどのようにして消化・吸収・代謝されているのかを学ぶ。また、三大栄養素の消化・吸収・代謝によりエネルギーが産生されるが、そのしくみと体が消費するエネルギーについても学ぶ。現代の社会環境のもと、嗜好や食欲に任せた食生活を続けていると、栄養素摂取のアンバランスを招き、健康障害の要因ともなっている。そのことを理解したうえで、人の栄養状態を総合的に評価・判定できるよう理解を深めていく。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	栄養の専門知識	各栄養素の体内でのたらしきを知った上で、バランスのとれた食事を考えることができる。
汎用的な力		本授業で学んだ知識をもとに、バランスよく、かつおいしい食事の提案ができる。
1 . DP5. 計画・立案力		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
各回の小テスト	： 各回20点満点とする。得点の高いもの7回分の平均点で評価する。
振り返りテスト	： 栄養学Ⅱで学んだ内容の振り返りテストを行う。
授業態度	： 授業内での積極性及び取組状況で評価する。
課題レポート	： 授業内で課題レポートを出し、10点満点で評価する。
	20%
	40%
	30%
	10%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
城田知子	イラスト栄養学総論	東京教学社	2015年

### 参考文献等

日本食品成分表「五訂増補 食品成分表」／香川芳子／女子栄養大学出版部

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業の前後以外は、メールにて質問をうけます(アドレス：yukin.113@outlook.jp) メールには氏名と学籍番号を必ず入れてください。

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>消化器の構造と位置</b> 栄養素の消化・吸収に携わる消化器系の位置と構造を理解する。	配布プリントを復習する。 4時間
第2回	<b>消化、吸収について</b> 摂取した食物の体内での変化を学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。 4時間

第3回	<b>消化吸収に携わる臓器とはたらきについて</b> 口腔内・胃内・小腸内・大腸内での消化について学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第4回	<b>栄養素の吸収とそのしくみについて</b> 吸収が行われる場所とそれぞれの吸収機構を学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第5回	<b>吸収された栄養素のゆくえについて</b> 吸収された栄養素の経路と血液中に吸収された栄養素のゆくえを学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第6回	<b>腸内細菌の役割、消化吸収率について</b> 善玉菌・悪玉菌の働きを学ぶ。 消化吸収率の求め方を学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第7回	<b>エネルギー代謝について</b> 体内におけるエネルギーとは何かを理解する。 エネルギーの単位を学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第8回	<b>消費エネルギーについて</b> 消費エネルギーの種類とはたらきを学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第9回	<b>エネルギー消費量の求め方</b> 様々なエネルギー消費量の求め方を学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第10回	<b>食品がもつエネルギーについて</b> 生理的燃焼値、物理的燃焼値について学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第11回	<b>食品成分表の活用の仕方</b> 食品成分表とは何かを知り、成分・カロリー算出法を学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第12回	<b>日本人の食事摂取基準（1）～導入～</b> 食事摂取基準とは何かを知る。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第13回	<b>日本人の食事摂取基準（2）～状況に応じた食事摂取基準～</b> ライフサイクル別の食事摂取基準とは何かを学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第14回	<b>栄養状態の判定について</b> 栄養アセスメントについて学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第15回	<b>振り返りテストと解説</b> 栄養学Ⅱで学んだ内容の振り返りテストを実施し、解説を行う。	テキストと配布プリントを復習しておく。	4時間

授業科目名	<b>食品学 I</b>				
担当教員名	田原 彩				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

食品は生命を維持する上で必要不可欠のものである。食品には1種類以上の栄養素が含まれており、多種類の食品からバランスよく栄養素を摂取することで、我々は健康を保つことができる。健全な食生活の保持、食の美味しさや楽しさを追求するためには、食品に関する十分な知識を持つことが必要である。本講義では「植物性食品」について、各食品の特徴、構造、成分、種類（品種）、貯蔵方法、加工品などを学ぶ。また、食品の観察、試食等を通して食品への知的好奇心を深めるとともに、実習などの実践で使える知識を身につけることを目指す。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	植物性食品に関する専門知識	植物性食品の特徴、構造、成分、種類、貯蔵方法、加工品及び、生産、流通、価格など、全般の知識が理解できる。
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP8. 意思疎通		各自で調べた食品について、他者にわかりやすく伝えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

#### 評価の基準

： 各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価します。なお、ルーブリックは初回授業で配布します。

20%

小テスト

： 授業内容確認のための小テストを行い、授業の理解度を評価します（5点満点×13回）

10%

授業内課題

： 食品に関する課題を3回提出する。10点×3回

30%

発表

： 各自で調べた食品の紹介について、独自のルーブリックを基に総合的に評価します。

10%

振り返りテスト

： 前期を通して授業理解の確認を行い、評価します。

30%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
一般社団法人全国製菓衛生師養成施設協会	製菓衛生師教本 第3巻 食品学	一般社団法人全国製菓衛生師養成施設協会	2015年
実教出版編集部	オールガイド食品成分表 2017	実教出版	2016年

### 参考文献等

原色食品図鑑／編者菅原龍幸、井上四郎／建帛社（株）  
 からだに美味しい 野菜の便利帳（便利帳シリーズ）／板木利隆／高橋書店  
 からだに美味しいフルーツの便利帳（便利帳シリーズ）／三輪 正幸／高橋書店

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業では板書することが多いため、ルーズリーフやカラーペンなど、必要なものを持参してください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月・木曜（12：10～13：00）

場所： 製菓研究室（本館3階）

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。

授業計画			授業外学修課題にか かる目安の時間
第1回	<b>食品学の概要と食品成分について</b> ・オリエンテーション（講義の進め方） ・食品とはどのようなものを指すのか、食品成分表の使い方、食品を構成する栄養素など学ぶ。	配布プリントの見直し。	4時間
第2回	<b>食品成分の特徴と変化① 水分、炭水化物</b> ・食品成分（水分、炭水化物）の特徴と変化について学ぶ。 ・その成分が変質していく過程と防止方法について学ぶ。	配布プリントの見直し。	4時間
第3回	<b>食品成分の特徴と変化② たんぱく質、脂質、ビタミン、ミネラルなど</b> ・食品成分（たんぱく質、脂質、ビタミン、ミネラルなど）の特徴と変化について学ぶ。 ・その成分が変質していく過程と防止方法について学ぶ。	配布プリントの見直し。	4時間
第4回	<b>穀類① 米/小麦</b> ・米、小麦の特徴、成分、加工特性などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。	4時間
第5回	<b>穀類② 大麦/トウモロコシ/その他</b> ・大麦、ライ麦、トウモロコシ、そば、その他の特徴、成分、加工特性などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。【課題①】穀類の加工品を調べる。	4時間
第6回	<b>いも類およびでんぷん類</b> ・いも類及びでんぷん類の特徴、成分、加工特性、旬、産地などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。	4時間
第7回	<b>砂糖および甘味料</b> ・砂糖、その他の甘味料の種類、特徴、加工特性などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。【課題②】上白糖、グラニュー糖以外の砂糖の試食とその砂糖について調べる（2種類）	4時間
第8回	<b>豆類① 大豆</b> ・大豆の特徴、成分、加工特性、加工品などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。	4時間
第9回	<b>豆類② 小豆/その他の豆類</b> ・小豆、その他の豆類の特徴、成分、加工特性、加工品などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。	4時間
第10回	<b>種実類</b> ・ナッツ類、種実類の特徴、成分、加工特性などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。	4時間
第11回	<b>野菜類① 葉菜類/茎菜類/根菜類</b> ・各野菜の分類と、特徴、成分、旬、産地などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。	4時間
第12回	<b>野菜類② 果菜類/花菜類/野菜の加工品</b> ・各野菜の分類と、特徴、成分、旬、産地、各野菜の加工品などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。	4時間
第13回	<b>果実類</b> ・果実類の特徴、成分、加工特性、旬、産地などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。【課題③】野菜や果実を使用したお菓子を採りレポートを提出する。	4時間
第14回	<b>キノコ類および藻類</b> ・キノコ類、藻類の特徴、成分、加工特性などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し	4時間
第15回	<b>食品の消費構造の変化と食品学 I の振り返り</b> ・食品の消費構造の変化について学ぶ。 ・食品学 I で学んだことを振り返り、振り返りテストを用いて理解を深める。	これまでの課題と配布プリント、小テストなどを用いて、食品学 I の知識の理解を深めておく。	4時間

授業科目名	<b>食品学Ⅱ</b>				
担当教員名	田原 彩				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

食品学Ⅱでは「動物性食品」について、各食品の特徴、構造、成分、種類（品種）、貯蔵方法、加工品などについて学び、さらに「油脂類」や「調味料」、「嗜好品飲料」など幅広く、その種類や特徴について学ぶ。また、食品を貯蔵・加工するための知恵や技術についても解説する。食品学Ⅰ及びⅡの授業を通して、日常的に利用する主な食品の知識を増やし、健康で豊かな食生活を送るために食品をどのように利用、活用すべきか、実習などの実践で使える知識を身につけることを目指す。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	動物性食品および調味料などに関する専門知識	動物性食品及び調味料などの特徴、構造、成分、種類、貯蔵方法、加工品及び、生産、流通、価格など、全般の知識が理解できる。
汎用的な力		
1 . DP8. 意思疎通		各自で調べた食品について、他者にわかりやすく伝えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

#### 評価の基準

： 各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価します。なお、ルーブリックは初回授業で配布します。

20%

小テスト

： 授業内容確認のための小テストを行い、授業の理解度を評価します（5点満点×14回）

10%

授業内課題

： 食品に関する課題を3回提出する。10点×3回

30%

発表

： 各自が調べた加工食品やアルコール飲料などの紹介について、独自のルーブリックを基に総合的に評価します。

10%

振り返りテスト

： 前期を通して授業理解の確認を行い、評価します。

30%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
一般社団法人全国製菓衛生師養成施設協会	製菓衛生師教本 第3巻 食品学	一般社団法人全国製菓衛生師養成施設協会	2015年
実教出版編集部	オールガイド食品成分表 2017	実教出版	2016年

### 参考文献等

原色食品図鑑／編者菅原龍幸、井上四郎／建帛社（株）  
からだに優しい 野菜の便利帳（便利帳シリーズ）／板木利隆／高橋書店  
からだに優しいフルーツの便利帳（便利帳シリーズ）／三輪 正幸／高橋書店

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業では板書することが多いため、ルーズリーフやカラーペンなど、必要なものを持参してください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火・水曜（12：10～13：00）
場所：	製菓研究室（本館3階）

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。

授業計画		授業外学修課題にかかるとする自らの時間
第1回	<b>魚介類① 魚類</b> ・魚類の特徴、成分、加工特性などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。 4時間
第2回	<b>魚介類② 貝類/えび・かに類/いか・たこ類/他</b> ・貝類、えび・かに類、いか・たこ類、その他の特徴、成分、加工特性などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。 4時間
第3回	<b>食肉類① 牛肉、豚肉</b> ・牛肉、豚肉の特徴、成分、加工特性などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。 4時間
第4回	<b>食肉類② 鶏肉、羊肉、馬肉、その他の食肉</b> ・鶏肉、羊肉、馬肉、その他の食肉の特徴、成分、加工特性などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。 4時間
第5回	<b>卵類</b> ・卵類の特徴、成分、加工特性などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。 4時間
第6回	<b>乳類</b> ・乳類の特徴、成分、加工特性、旬、産地などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。【課題①】乳類を使用した加工食品を調べる。 4時間
第7回	<b>油脂類</b> ・油脂類の種類、特徴、加工特性などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。 4時間
第8回	<b>嗜好品① 菓子類/非アルコール飲料</b> ・非アルコール飲料（茶、コーヒー、ココア、炭酸飲料など）の特徴、成分、製造方法などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。 4時間
第9回	<b>嗜好品② アルコール飲料</b> ・アルコール飲料（ワイン、ビール、日本酒、ブランデーなど）の特徴、成分、製造方法などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。【課題②】アルコールを使用したお菓子について調べる。 4時間
第10回	<b>調味料と香辛料</b> ・調味料及び香辛料の特徴、成分、役割などについて学ぶ。 ・生産と輸入状況、流通と価格、変質と防止方法などについて学ぶ。	配布プリントの見直し。 4時間
第11回	<b>食品の加工について</b> ・冷凍食品、インスタント食品、レトルト食品など、食品の加工原理や方法について学ぶ。 ・食品の加工貯蔵技術について学ぶ。	配布プリントの見直し。【課題③】身近にある加工貯蔵技術を利用した食品を調べる。 4時間
第12回	<b>食品の変質と防止方法</b> ・食品の変質と防止方法についてまとめる。 ・これまでの授業で学んできた方法をまとめる（食品、変質防止方法、貯蔵方法など）。	配布プリントの見直し。 4時間
第13回	<b>食品の生産と消費① 生産と輸入</b> ・食品の生産と輸入についてまとめる。 ・これまでの授業で学んできた国内生産と輸入についてまとめる（自給率の高い食品や低い食品など）。	配布プリントの見直し。 4時間
第14回	<b>食品の生産と消費② 流通</b> ・食品の流通についてまとめる。 ・これまでの授業で学んできた食品の流通の推移、流通と価格の関係などについてまとめる。	配布プリントの見直し。 4時間
第15回	<b>食品学Ⅱの振り返りテスト及び解説、食環境の変化について</b> ・食品学Ⅱで学んだことを振り返りテストと解説を行い、理解を深める。 ・食環境の変化や現代の食環境について学ぶ。	これまでの課題と配布プリント、小テストなどを用いて、食品学Ⅰの知識の理解を深めておく。 4時間

授業科目名	<b>食品衛生学 I</b>				
担当教員名	草尾 賀子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業は食品の安全性に関わる食品衛生について関心を持ち、その重要性を理解し、「食」の専門家として必要な食品衛生についてのさまざまな知識を習得することを目標としている。食品を通して健康危害を引き起こす食中毒、有害汚染物質や食品添加物の知識、そして安心・安全な食のための衛生管理などについてのさまざまな知識を身につけた上で、習得した知識を実際の食生活に活用し、調理実習やその他の調理を衛生的に行うことができるように授業を進めていく。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	食品衛生に関する知識	書籍やインターネットの情報をもとに、食品衛生の知識とその重要性を理解できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		収集した資料から、食品衛生に関する課題を検討できる。
2．DP6. 行動・実践		身につけた知識を活かして衛生的に調理することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
1. 確認テスト	： 各回の授業内容に関する確認テストで知識の定着度を確認する。これを15回実施。
2. 課題レポート	： 授業内容を踏まえた記述ができていれば2点、そこに独自の見解や具体例が示されていれば3点、重大な誤りや不足があれば1点とする。これを15回実施。
3. 振り返りテスト	： 授業内容を振り返るテストを実施し、40点満点とする。
4. 授業への取り組み状況	： 各回授業への積極的参加（発表や質問は加点）や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
	30%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小塚諭	・ イラスト食品の安全性	・ 東京教学社	・ 2016年

### 参考文献等

簡明食品衛生学第2版／菅家祐輔編／光生館

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜4限
場所：	フードコーディネート研究室

### 授業計画

第1回	<b>食品の安全性とは</b>	テキスト第2章食品の変質を熟読し、第2回授業に備える。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	-----------------	-----------------------------	-------------------------



	食品の安全性とは何かその重要性を理解する。		
第2回	<b>食品と微生物</b>  食品と微生物の関わりを学ぶ。	微生物を利用した加工食品を利用する微生物の種類ごとにまとめ、その中から一つ選択して製造法を調べてまとめる。	4時間
第3回	<b>食中毒の概要と発生状況</b>  食中毒の概要とわが国における発生状況を理解する。	授業内配布課題プリントを完成させておく。テキスト第3章微生物性食中毒をじっくりと第4回授業に備える。	4時間
第4回	<b>感染型細菌性食中毒</b>  感染型細菌性食中毒（サルモネラ菌、腸炎ビブリオ菌、カンピロバクター菌）について学ぶ。	サルモネラ食中毒と腸炎ビブリオ食中毒の発生事例を調べ、食中毒予防のための課題を見出す。	4時間
第5回	<b>毒素型細菌性食中毒</b>  毒素型細菌性食中毒（黄色ブドウ球菌、ボツリヌス菌、ウェルシュ菌）について学ぶ。	日本における黄色ブドウ球菌食中毒とボツリヌス菌食中毒の発生事例を調べ、食中毒予防のための課題を見出す。テキストのウイルス性食中毒の箇所を熟読して第6回授業に備える。	4時間
第6回	<b>ウイルス性食中毒</b>  ノロウイルスによる食中毒について学ぶ。	近年の日本におけるノロウイルス食中毒の発生事例を調べ、課題と解決策を考える。	4時間
第7回	<b>自然毒食中毒</b> 動物性および植物性自然毒食中毒について学ぶ。	授業内課題を完成させておく。	4時間
第8回	<b>食中毒のまとめ、化学性食中毒</b> 食中毒のまとめおよび化学性食中毒について学ぶ。	食中毒のまとめ課題を完成させる	4時間
第9回	<b>食品の鑑別</b>  食品の鮮度判定の方法とラベル表示について学ぶ。	食品のラベル表示を2枚切り抜き、その説明ができるよう発表原稿を用意しておく。	4時間
第10回	<b>環境汚染と食品</b>  食品を汚染する有害汚染物質について学ぶ。	日本で問題となっている食品を汚染する有害汚染物質にはどのようなものがあるか調べておく。	4時間
第11回	<b>食品による寄生虫症</b>  食品から感染するさまざまな寄生虫症とその予防を学ぶ。	アニサキスによる寄生虫の発生事例を調べ、それを予防するための課題と対策を考えてまとめる。	4時間
第12回	<b>器具および容器包装、調理施設の衛生管理</b> 器具・容器包装と調理施設における衛生管理について学ぶ。	授業内容をまとめた課題を完成させておく。	4時間
第13回	<b>食品添加物概論</b>  食品添加物の概要と安全性評価、食品添加物表示について学ぶ。	普段よく口にする加工食品の表示ラベルを切り抜き、使用されている食品添加物について調べておく。	4時間
第14回	<b>食品添加物各論</b>  食品添加物の種類と用途を学ぶ。	授業を受け、食品添加物を摂取することに対する自分の考えを600字程度でまとめる。まとめプリントを解いておく。	4時間
第15回	<b>HACCPと遺伝子組換え食品、全授業のまとめ、振り返りテスト</b> HACCPによる衛生管理と遺伝子組換え食品について学ぶ。全授業のまとめを行う。振り返りテストを行う。	全授業内容の総復習を行う。	4時間

授業科目名	<b>調理学 I</b>				
担当教員名	川原 早苗				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

さまざまな特性を持つ素材としての食品を、おいしい食べ物に作り変えることを調理という。おいしい食べ物を作り出す要素を分析した上で調理を科学的にとらえ、切る・煮る・炒める・揚げるなどの基本的な調理操作の方法やなぜそうすることが必要であるかという理論を学ぶ。また、味付けに必要な調味料の分量の計算の仕方や、基本的ないくつかの食品の調理上の特性もとりあげ、調理を食料・栄養・安全・環境の面からも考え、健康的で豊かな食生活を営むための基礎的な知識を学ぶ。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	調理方法や食品の調理に関する基礎知識	調理方法の特徴、調味の方法、食品の調理上の特性を理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	知識を実際の調理につなげる	調理実習や自身の調理経験に学んだ知識が生かされていることを理解し、実践することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自身の経験から、調理のコツの根拠を考えることができる。
2．DP8. 意思疎通		レポート課題に対して、自分の意見も含めてまとめることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業内小レポート

#### 評価の基準

： 内容により、各回0～2点で評価する。

20%

課題レポート

： 10点満点  
テーマに対して、自分の意見を含めてまとめられていると10点  
詳しく調べてあれば8点、一応まとめてあれば6点

10%

振り返りテスト

： 知識に関する筆記テストを行い、理解度を評価する。

50%

授業態度

： 授業への積極的な参加、受講態度などを総合的に評価する。

20%

### 使用教科書

指定する

著者

下村道子・和田淑子

タイトル

・ 新調理学

出版社

・ 光生館

出版年

・ 2015年

### 参考文献等

コツと科学の調理事典／河野友美／医歯薬出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業教室、フードコーディネーター研究室

備考・注意事項： 質問は授業の前後、またはメールで対応する。  
アドレス：kawahara@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

： 授業外学修課題に  
： かかる目安の時間

第1回	<b>調理学とは・食べもののおいさと調理</b> 食品からおいしい食べ物を作るという調理の意 味を考え、食べ物のおいしさを作る要素を、人間の感覚から考 える。	授業内容の復習をする。	4時間
第2回	<b>食べ物のおいしさ</b> おいしさを、食べ物の味・におい・色・テクスチャーなどの条 件から考える。	授業内容の復習をする。	4時間
第3回	<b>調味操作</b> 味付けのための調味料の計算方法を例題を用いて練習する。	授業内容の復習をする。	4時間
第4回	<b>非加熱操作①（はかる、洗う、浸す、切る）</b> 非加熱操作（はかる、洗う、浸す、切る） 調理操作の特徴や注意点を学習する。	授業内容の復習をする。	4時間
第5回	<b>非加熱操作②（混ぜる、和える、する、つぶす、潰ける）</b> 非加熱操作（混ぜる、和える、する、つぶす、潰ける） 調理操作の特徴や注意点を学習する。	授業内容の復習をする。	4時間
第6回	<b>非加熱操作③（冷やす、凍結、解凍）</b> 非加熱操作（冷やす、凍結、解凍） 調理操作の特徴や注意点を学習する。	授業内容の復習をする。	4時間
第7回	<b>加熱操作①（煮る）</b> 加熱操作（煮る） 調理操作の特徴や注意点を学習する。	授業内容の復習をする。課題レポート「災害 時の食について」	4時間
第8回	<b>加熱操作②（ゆでる、炊く）</b> 加熱操作（ゆでる、炊く） 調理操作の特徴や注意点を学習する。	授業内容の復習をする。	4時間
第9回	<b>加熱操作③（蒸す、焼く、炒る、炒める）</b> 加熱操作（蒸す、焼く、炒る、炒める） 調理操作の特徴や注意点を学習する。	授業内容の復習をする。	4時間
第10回	<b>加熱操作④（揚げる、加圧調理、電子レンジ加熱）</b> 加熱操作（揚げる、加圧調理、電子レンジ加熱） 調理操作の特徴や注意点を学習する。 鍋の素材による特徴を学習する。	授業内容の復習をする。	4時間
第11回	<b>食品の調理①（米・小麦粉）</b> 食品の調理（米・小麦粉） 主食の材料となる米と小麦粉について、調理上の特徴や注 意点を学習する。	授業内容の復習をする。	4時間
第12回	<b>食品の調理②（肉・魚・卵）</b> 食品の調理（肉・魚・卵） 主菜の材料となる肉・魚・卵について、調理上の特徴や注 意点を学習する。	授業内容の復習をする。	4時間
第13回	<b>食品の調理③（野菜・芋）</b> 食品の調理（野菜・芋） 副菜の材料となる野菜・芋について、調理上の特徴や注 意点を学習する。	授業内容の復習をする。	4時間
第14回	<b>食品の調理④（豆・茶・デンプン）</b> 食品の調理（豆・茶・デンプン） 豆・茶・デンプンについて調理上の特徴や注意点を学習する。	授業内容の復習をする。	4時間
第15回	<b>振り返りテストと解説</b> 振り返りテストを行い、解説を行う。	今期学んだ内容の総復習をする。	4時間

授業科目名	<b>調理学Ⅱ</b>				
担当教員名	川原 早苗				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

調理学Ⅰで学んだ内容をさらに深め、個々の食品の調理上の特性を詳しく学習する。それを活かして、同じ料理でもさらにおいしく作るための調理法の工夫について考え、実際の調理に応用できるように知識を深めることを目標とする。またフードコーディネーターとして、米・肉・魚・野菜などの食品だけでなく茶・コーヒー・酒類などの飲み物についても、種類や作り方・サービスの仕方などの知識を学び、フードビジネス業界で働くための基礎的な力を身につける。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解 2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	食品の調理上の特性 知識を実際の調理につなげる	各食品について調理上の特性を理解できる。 調理実習や自身の調理経験に学んだ知識が生かされていることを理解し、実践することができる
汎用的な力 1．DP4. 課題発見 2．DP8. 意思疎通		自身の経験から、調理のコツの根拠を考えることができる。 レポート課題に対して、自分の意見も含めてまとめることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シヤトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内小レポート 20%	: 内容により、各回0～2点で評価する。
課題レポート 10%	: 10点満点 テーマに対して、自分の意見を含めてまとめられていれば10点、詳しく調べてあれば8点、一応まとめてあれば6点
振り返りテスト 50%	: 知識に関する筆記テストを行い、理解度を評価する。
授業態度 20%	: 授業への積極的な参加、受講態度などを総合的に評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
下村道子・和田淑子	・ 新調理学	・ 光生館	・ 2015年

### 参考文献等

お菓子『こっつ』の科学／河田昌子／柴田書店  
 西洋料理料飲接客サービス技法／(社)日本ホテル・レストランサービス技能協会／財団法人職業訓練教材研究会

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業前後
場所：	授業教室、フードコーディネーター研究室
備考・注意事項：	質問は授業の前後、またはメールで対応する。 アドレス：kawahara@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	<b>米の調理</b> ・米の調理性を学ぶ。 ・米を使った調理法を学ぶ。	授業内容の復習をする。 4時間
第2回	<b>小麦粉の調理</b> ・小麦粉の調理性を学ぶ。 ・小麦粉を使った、膨化調理・非膨化調理について学ぶ。	授業内容の復習をする。 4時間
第3回	<b>肉の調理</b> ・肉の種類と調理について学ぶ。 ・肉の部位と調理性について学ぶ。	授業内容の復習をする。課題レポート「ジビエ料理について」 4時間
第4回	<b>魚介の調理</b> ・魚介類の種類と調理について学ぶ。 ・魚介類の鮮度について学ぶ。	授業内容の復習をする。 4時間
第5回	<b>卵の調理</b> ・卵の調理性を学ぶ。 ・卵を使った調理法を学ぶ。	授業内容の復習をする。 4時間
第6回	<b>野菜の調理</b> ・野菜・果物・きのこ類の調理について学ぶ。	授業内容の復習をする。 4時間
第7回	<b>いも類の調理</b> ・いも類の種類と調理について学ぶ。	授業内容の復習をする。 4時間
第8回	<b>豆類の調理</b> ・豆類の種類と調理について学ぶ。	授業内容の復習をする。課題レポート「ジャンパンについて」 4時間
第9回	<b>牛乳と乳製品</b> ・牛乳の調理性について学ぶ。 ・チーズの種類について学ぶ。	授業内容の復習をする。 4時間
第10回	<b>茶・コーヒー</b> ・茶・コーヒーの種類と入れ方について学ぶ。	授業内容の復習をする。 4時間
第11回	<b>酒</b> ・酒の種類と調理について学ぶ。	授業内容の復習をする。 4時間
第12回	<b>ワイン</b> ・世界各国ワインの品質分類、特徴について学ぶ。	授業内容の復習をする。 4時間
第13回	<b>油脂の調理</b> ・油脂の種類と調理性について学ぶ。	授業内容の復習をする。 4時間
第14回	<b>寒天・ゼラチン・でんぷん</b> ・寒天・ゼラチン・でんぷんの調理性について学ぶ。	授業内容の復習をする。 4時間
第15回	<b>振り返りテストと解説</b> 振り返りテストを行い、解説を行う。	今期学んだ内容の総復習をする。 4時間

授業科目名	<b>調理学実習 I</b>				
担当教員名	坂根 正史				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、調理を行う上で最も重要である『調理の基本』を、日本料理・西洋料理、並びに中国料理を代表する基本的な料理を実習（実践）することによって学びながら、それらのジャンルを越えた基本的な調理作業のポイントや、素材別の調理の際における特性、並びにその取り扱いに際しての注意点を学ぶと共に、盛り付けの際の基本的なポイントに至るまで、素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本を、トータル的に学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	『調理の基本』に関する知識・技能	素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本的な知識・技能を理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	『調理の基本』に関する知識・技能の実践力	素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本的な知識・技能を実践することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本的な知識・技能を実践することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

実技テスト	40%	： 本授業で学んだ技術を活用し、ワンセルフ形式にて指定した料理の調理を行い、その料理の出来栄を独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業内課題	40%	： 本授業で学んだ知識に関する確認テストを実施し、独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講状況	10%	： 各回の授業への積極的な参加や、受講態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業プリントの記入状況	5%	： 各回の授業における知識・技術のポイントが的確、かつ解りやすくまとめてあるかどうかに関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
レポートの提出状況	5%	： レポート課題に対する理解度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 [授業外学修課題]に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 また、[授業内マナー]、並びに[実習授業時の心得え]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜1時限
場所：	フードコーディネーター研究室（本館3階）
備考・注意事項：	上記の時間帯以外にも研究室にいることはありますが、不在の場合には、メールでも対応します。 なお、メールを送信する場合は、件名に[学籍番号・名前]、本文に[内容]を明記するようにしてください。 ※メールアドレス sakane@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

： 授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	<b>調理実習の心得と、調理実習室の利用方法等</b> 1. 2年間の調理実習関連の授業受講における心得 2. 調理実習室の利用方法（使用方法）について 3. 調理機器・器具の使用法について	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第2回	<b>日本料理と西洋料理のだし汁について</b> 1. 日本料理における“だし汁”について学ぶ。 2. 西洋料理における“だし汁”について学ぶ。 3. 日本料理と西洋料理の“だし汁”の違いについて学ぶ。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第3回	<b>[1] - 1 基本的な日本料理</b> 1. “鶏の和風から揚げ”を主菜として調理。 2. “副菜1品・ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第4回	<b>[1] - 2 基本的な日本料理</b> 1. “肉じゃが”を主菜として調理。 2. “副菜1品・ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第5回	<b>[1] - 3 基本的な日本料理</b> 1. “魚の照り焼き”を主菜として調理。 2. “副菜1品・ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第6回	<b>[1] - 4 基本的な日本料理</b> 1. “かつ丼”を主菜として調理。 2. “副菜1品・汁物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第7回	<b>[1] - 5 基本的な日本料理</b> 1. “さばの味噌煮”を主菜として調理。 2. “副菜1品・ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第8回	<b>[2] - 1 基本的なイタリア料理</b> 1. “スパゲッティニ アマトリチャーナ [パスタ料理]”をメインの料理として調理。 2. “魚料理1品・ドルチェ1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第9回	<b>[2] - 2 基本的なイタリア料理</b> 1. “ミラノ風カツレツ [肉料理]”をメインの料理として調理。 2. “パスタ料理1品・ドルチェ1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第10回	<b>[2] - 3 基本的なイタリア料理</b> 1. “スパゲッティ カルボナーラ [パスタ料理]”をメインの料理として調理。 2. “肉料理1品・ドルチェ1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第11回	<b>[3] - 1 基本的な中国料理</b> 1. “エビのチリソース炒め”をメインの料理として調理。 2. “ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第12回	<b>[3] - 2 基本的な中国料理</b> 1. “八宝菜”をメインの料理として調理。 2. “ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第13回	<b>[3] - 3 基本的な中国料理</b> 1. “焼き餃子”をメインの料理として調理。 2. “副菜1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第14回	<b>学外授業【テーブルマナー研修会 &lt;洋食&gt;】</b> 1. 外部施設（ホテル）にて実施。 2. 講師、並びに料理を外部施設（ホテル）にご手配いただき、会食をしながら実施。 3. [その他] 2回生によるサービスにて実施。	学んだ内容をレポートにまとめて提出	1時間
第15回	<b>実技テスト ・ 授業内課題</b>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間

**【実技テスト】**  
この授業内で学んだの1品を、すべての作業を一人で行う“ワ  
ンセルフ実習”形式にて実施。

**【授業内課題】**  
この授業内で学んだ調理手順・調理作業とそのポイント・調理  
用語等に関する確認テストを実施。

---



授業科目名	<b>調理学実習 II</b>				
担当教員名	坂根 正史				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、調理学実習 I の授業において、日本料理・西洋料理、並びに中国料理を代表する基本的な料理を実習（実践）することによって学んだ『調理の基本』、並びに基本的な調理作業や、素材別の調理の際における特性、及びその取り扱いに際しての注意点や、盛り付けの際の基本的なポイントをベースとし、各ジャンルにおけるワンランク上の応用料理を実習（実践）することにより、調理法の応用力を習得し、オリジナルメニューの作成ができるようになるスキルを学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	『調理の基本』に関する知識・技能の応用	素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本的な知識・技能の応用を理解することができる。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	『調理の基本』に関する知識・技能の実践力の応用	素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本的な知識・技能の応用を実践することができる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本的な知識・技能の応用を実践することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

実技テスト	40%	： 本授業で学んだ技術を活用し、ワンセルフ形式にて指定した料理の調理を行い、その料理の出来栄を独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業内課題	40%	： 本授業で学んだ知識に関する確認テストを実施し、独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講状況	10%	： 各回の授業への積極的な参加や、受講態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業プリントの記入状況	5%	： 各回の授業における知識・技術のポイントが的確、かつ解りやすくまとめてあるかどうかに関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
レポートの提出状況	5%	： レポート課題に対する理解度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 [授業外学修課題]に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 また、[授業内マナー]、並びに[実習授業時の心得え]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜1限
場所：	フードコーディネーター研究室（本館3階）
備考・注意事項：	上記の時間帯以外にも研究室にいることはありますが、不在の場合には、メールでも対応します。 なお、メールを送信する場合は、件名に[学籍番号・名前]、本文に[内容]を明記するようにしてください。 ※メールアドレス sakane@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

： 授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	<p><b>[1] - 1 日本料理&lt;応用料理&gt;</b></p> <p>1. “野菜のかき揚げ”を主菜として調理。  2. “主菜1品・ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせて調理。  3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第2回	<p><b>[1] - 2 日本料理&lt;応用料理&gt;</b></p> <p>1. “ちらし寿司”を主菜として調理。  2. “副菜1品・汁物1品・デザート1品”を組み合わせて調理。  3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第3回	<p><b>[1] - 3 日本料理&lt;応用料理&gt;</b></p> <p>1. “鶏の照り焼き”を主菜として調理。  2. “ご飯物1品・汁物1品・デザート1品”を組み合わせて調理。  3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第4回	<p><b>[1] - 4 日本料理&lt;応用料理&gt;</b></p> <p>1. “いなりずし・のり巻(細巻き)”を主菜として調理。  2. “副菜1品・汁物1品・デザート1品”を組み合わせて調理。  3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第5回	<p><b>[2] - 1 イタリア料理&lt;応用料理&gt;</b></p> <p>1. “若鶏のオープン焼き [肉料理]”をメインの料理として調理。  2. “パスタ料理1品・ドルチェ1品”を組み合わせて調理。  3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第6回	<p><b>[2] - 2 イタリア料理&lt;応用料理&gt;</b></p> <p>1. “かぼちゃのニョッキ [パスタ料理]”をメインの料理として調理。  2. “前菜1品・ドルチェ1品”を組み合わせて調理。  3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第7回	<p><b>[2] - 3 イタリア料理&lt;応用料理&gt;</b></p> <p>1. “フルーツ入りロールケーキ [ドルチェ]”をメインのお菓子として調理。  2. “前菜1品・パスタ料理1品”を組み合わせて調理。  3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第8回	<p><b>[3] - 1 中国料理&lt;応用料理&gt;</b></p> <p>1. “天津飯”をメインの料理として調理。  2. “副菜1品・デザート1品”を組み合わせて調理。  3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第9回	<p><b>[3] - 2 中国料理&lt;応用料理&gt;</b></p> <p>1. “担々麵”をメインの料理として調理。  2. “主菜1品・デザート1品”を組み合わせて調理。  3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第10回	<p><b>[4] フランス料理 [応用料理]</b></p> <p>1. “オマール海老のアメリカ風 [魚料理]”をメインの料理として調理。  2. “付け合わせ1品・デザート1品”を組み合わせて調理。  3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第11回	<p><b>[5] - 1 ビュッフェスタイル体験授業</b></p> <p>1. 班単位でクラス全員分の料理を1品調理。  2. メニューの提案から班単位で実施。  3. デモンストレーションは実施せずに全体ミーティング後すぐに調理を開始し、決められた時間までに料理を仕上げ、試食を実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第12回	<p><b>[5] - 2 ビュッフェスタイル体験授業</b></p> <p>1. 班単位でクラス全員分の料理を1品調理。  2. メニューの提案から班単位で実施。  3. デモンストレーションは実施せずに全体ミーティング後すぐに調理を開始し、決められた時間までに料理を仕上げ、試食を実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第13回	<p><b>[6] おせち料理</b></p> <p>1. “おせち料理”を代表する献立を調理。  2. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。  3. デモンストレーションは実施せず、口頭説明のみを行った後、班単位で調理・試食を実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第14回	<p><b>学外授業 [テーブルマナー研修会 &lt;和食&gt;]</b></p> <p>1. 外部施設(ホテル)にて実施。  2. 講師、並びに料理を外部施設(ホテル)にご手配いただき、会食をしながら実施。</p>	学んだ内容をレポートにまとめて提出	1時間

第15回	<b>実技テスト ・ 授業内課題</b> 【実技テスト】 この授業内で学んだの1品を、すべての作業を一人で行う“ワ ンセルフ実習”形式にて実施。 【授業内課題】 この授業内で学んだ調理手順・調理作業とそのポイント・調理 用語等に関する確認テストを実施。	授業内容を記入した授業プリントのま とめ、並びにファイリング	1時間
------	--	-----------------------------------	-----

授業科目名	カフェ実習				
担当教員名	坂根 正史				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「不可」

## 授業概要

本授業では、調理学実習Ⅰ、並びに調理学実習Ⅱの授業において学んだ、日本料理・西洋料理、並びに中国料理における『調理の基本』、並びに基本的な調理作業や、素材別の調理の際における特性、及びその取り扱いに際しての注意点や、盛り付けの際の基本的なポイントをベースとし、カフェという業態の概要を理解した上で、そこで提供されるカフェメニューとドリンクメニューを作成するための基本的な知識・技術、並びに提供する際のスタイルについて学びます。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	『カフェ』に関する知識・技能	カフェという業態の概要を理解した上で、そこで提供されるカフェメニューとドリンクメニューを作成するための基本的な知識・技術、並びに提供する際のスタイルを理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	『カフェ』に関する知識・技能の実践力	カフェという業態の概要を理解した上で、そこで提供されるカフェメニューとドリンクメニューを作成するための基本的な知識・技術、並びに提供する際のスタイルを実践することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		カフェという業態の概要を理解した上で、そこで提供されるカフェメニューとドリンクメニューを作成するための基本的な知識・技術、並びに提供する際のスタイルを実践することができる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

### 評価の基準

実技テスト	40%	： 本授業で学んだ技術を活用し、ワンセルフ形式にて指定した料理の調理を行い、その料理の出来栄を独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業内課題	40%	： 本授業で学んだ知識に関する確認テストを実施し、独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講状況	10%	： 各回の授業への積極的な参加や、受講態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業プリントの記入状況	5%	： 各回の授業における知識・技術のポイントが的確、かつ解りやすくまとめているかどうかに関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
レポートの提出状況	5%	： レポート課題に対する理解度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

なし

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 [授業外学修課題]に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 また、[授業内マナー]、並びに[実習授業時の心得え]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜1限
場所：	フードコーディネータ研究室（本館3階）

備考・注意事項： 上記の時間帯以外にも研究室にいることはありますが、不在の場合には、メールでも対応します。  
なお、メールを送信する場合は、件名に「学籍番号・名前」、本文に「内容」を明記するようにしてください。  
※メールアドレス sakane@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>カフェについてと、コーヒー・紅茶の入れ方</b> 1. カフェという業態・スタイルの概要説明 2. カフェで提供されるメニュー（ドリンクメニューを含む）に関する説明 3. “コーヒー”と“紅茶”の概要説明、並びにそのバリエーションについて	1時間
第2回	<b>その他のドリンクメニュー&amp;デザート</b> 1. “その他のドリンクメニュー”の説明と、そのバリエーションについて 2. “アイスクリームを使用したデザート”の説明と、そのバリエーションについて 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	1時間
第3回	<b>[1] - 1 西洋料理・セットメニュー</b> 1. “ミックスサンド”をメインの料理として調理。 2. “主菜1品・デザート1品”を組み合わせで調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	1時間
第4回	<b>[1] - 2 西洋料理・セットメニュー</b> 1. “生パスタの作り方と、それを使用したパスタ料理”をメインの料理として調理。 2. “副菜1品・デザート1品”を組み合わせで調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	1時間
第5回	<b>[1] - 3 西洋料理・セットメニュー</b> 1. “グラタン2種（マカロニ・ラザーニヤ）”をメインの料理として調理。 2. “肉料理1品・サラダ1品・デザート1品”を組み合わせで調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	1時間
第6回	<b>[1] - 4 西洋料理・セットメニュー</b> 1. “鶏もも肉のパン粉焼き”をメインの料理として調理。 2. “スープ1品・デザート1品・ドリンク1品”を組み合わせで調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	1時間
第7回	<b>[1] - 5 西洋料理・セットメニュー</b> 1. “ピッツァ（マルゲリータ・もちめんたいマヨネーズ）”をメインの料理として調理。 2. “サラダ1品・ドリンク1品”を組み合わせで調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	1時間
第8回	<b>[1] - 6 西洋料理・セットメニュー</b> 1. “クラムチャウダー”をメインの料理として調理。 2. “パンメニュー1品・サラダ1品・ドリンク1品”を組み合わせで調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	1時間
第9回	<b>[2] 中国料理・セットメニュー</b> 1. “えび団子のパン揚げ”をメインの料理として調理。 2. “ご飯物1品・副菜1品・デザート1品”を組み合わせで調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	1時間
第10回	<b>[3] 韓国料理・セットメニュー</b> 1. “キムチチヂミ”をメインの料理として調理。 2. “ご飯物1品・スープ1品”を組み合わせで調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	1時間
第11回	<b>[4] - 1 エスニック料理・セットメニュー</b> 1. “ナシゴレン（目玉焼きのせ）”をメインの料理として調理。 2. “付け合わせ3品・副菜1品・スープ1品”を組み合わせで調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	1時間
第12回	<b>[4] - 2 エスニック料理・セットメニュー</b> 1. “生春巻き”をメインの料理として調理。 2. “副菜2品・麺料理1品・デザート1品”を組み合わせで調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	1時間
第13回	<b>[5] 日本料理・セットメニュー</b> 授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間

	<p>1. “いわしの梅煮”をメインの料理として調理。  2. “ご飯物1品・副菜4品・サラダ1品・汁物1品・デザート1品”を組み合わせで調理。  3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</p>		
第14回	<p><b>卒業作品展の見学と、レポート作成</b>  2回生による“卒業作品展 [テーブルコーディネート作品展]”を見学。</p>	学んだ内容をレポートにまとめて提出	1時間
第15回	<p><b>実技テスト ・ 授業内課題</b>  【実技テスト】  この授業内で学んだの1品を、すべての作業を一人で行う“ワンセルフ実習”形式にて実施。  【授業内課題】  この授業内で学んだ調理手順・調理作業とそのポイント・調理用語等に関する確認テストを実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間

授業科目名	<b>調理学演習 I</b>				
担当教員名	坂根 正史				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、調理を行う上で重要である調理作業の、“切り出し”、“調理法”、“調味料”、並びに“調味の仕方”等に関する基礎的な知識、並びに技術的なポイントを実践を通してトータル的に学ぶと共に、それらを系統的にしっかりと把握する為の日々の反復実習（実践）を行いながら、しっかりと習得した上で、香川栄養大学が開催する文部科学省後援の“家庭料理技能検定3級（料検3級）”に合格できるレベルの知識・技能について学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	基礎的な知識・技能	調理を行う上で重要である調理作業の、“切り出し”、“調理法”、“調味料”、並びに“調味の仕方”等に関する基礎的な知識・技能を理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	基礎的な知識・技能の実践力	調理を行う上で重要である調理作業の、“切り出し”、“調理法”、“調味料”、並びに“調味の仕方”等に関する基礎的な知識・技能を実践することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		調理を行う上で重要である調理作業の、“切り出し”、“調理法”、“調味料”、並びに“調味の仕方”等に関する基礎的な知識・技能を実践することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

実技テスト	40%	： 本授業で学んだ技術を活用し、ワンセルフ形式にて指定した料理の調理を行い、その料理の出来栄を独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業内課題	40%	： 本授業で学んだ知識に関する確認テストを実施し、独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講状況	10%	： 各回の授業への積極的な参加や、受講態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業プリントの記入状況	5%	： 各回の授業における知識・技術のポイントが的確、かつ解りやすくまとめてあるかどうかに関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
レポートの提出状況	5%	： レポート課題に対する理解度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 [授業外学修課題]に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 また、[授業内マナー]、並びに[実習授業時の心得え]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限

場所： フードコーディネーター研究室（本館3階）

備考・注意事項： 上記の時間帯以外にも研究室にいることはありますが、不在の場合には、メールでも対応します。  
 なお、メールを送信する場合は、件名に[学籍番号・名前]、本文に[内容]を明記するようにしてください。  
 ※メールアドレス sakane@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>白衣の着方、並びに包丁について</b> 1. 2年間の調理実習の授業における、白衣の着方について説明。 2. 2年間の調理実習の授業において使用する、包丁に関する知識・取り扱い方・切り方・研ぎ方について説明。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第2回	<b>【1】－1 野菜の切り方とむき方</b> 1. [実施概要] 大根・きゅうり・りんごを使った各種切り出し 2. [実施内容] 大根のせん切り ・ きゅうりのせん切り ・ りんごの皮むき 3. [試食] 大根ときゅうりのサラダ ・ カットりんご	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第3回	<b>【1】－2 野菜の切り方とむき方</b> 1. [実施概要] キャベツ・玉葱を使った各種切り出し 2. [実施内容] キャベツのせん切り(コールスロー) ・ 玉葱の薄切りとみじん切り 3. [試食] コールスローサラダ ・ リンゴのコンポート	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第4回	<b>魚の卸し方と魚料理、並びにご飯の炊き方</b> 1. [実施内容] 魚の卸し方(下処理を含む) ・ ご飯の炊き方(基礎知識を含む) 2. [実施献立・メニュー] さばの竜田揚げ ・ 白ご飯 3. [その他] 試食用として、コールスローサラダの調理も実施	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第5回	<b>調味料の種類と、調味の基本方法を学ぶ</b> 1. [実施概要] 調味料の種類について理解し、それらの使用した調味の基本方法を学ぶ 2. [実施献立・メニュー] キャベツの煮込み 3. [その他] 試食用として、豆ご飯の調理も実施	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第6回	<b>調理法 “焼く” について学ぶ</b> 1. “チキンステーキ”を主菜として調理。 2. “副菜1品・ご飯物1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第7回	<b>調理法 “炒める” について学ぶ</b> 1. “チキンピラフ”を主菜として調理。 2. “副菜1品・サラダ1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第8回	<b>調理法 “煮る” について学ぶ</b> 1. “煮込みハンバーグ”を主菜として調理。 2. “副菜1品・ご飯物1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第9回	<b>調理法 “揚げる” について学ぶ</b> 1. “エビフライ”を主菜として調理。 2. “副菜1品・ご飯物1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第10回	<b>調理法 “蒸す” について学ぶ</b> 1. “茶碗蒸し”を主菜として調理。 2. “主菜1品・ご飯物1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第11回	<b>【2】－1 総合演習</b> 1. 実施概要の説明 2. 基礎実技<A>の練習 3. 指定調理<A>の練習 ※ 実施内容に関しては、今までの調理作業の状況から判断し、レベルアップの必要があると思われる内容をチョイスして実施。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第12回	<b>【2】－2 総合演習</b> 1. 基礎実技<B>の練習 2. 指定調理<B>の練習 ※ 実施内容に関しては、今までの調理作業の状況から判断し、レベルアップの必要があると思われる内容をチョイスして実施。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第13回	<b>【2】－3 総合演習</b> 1. 基礎実技<C>の練習 2. 指定調理<C>の練習 ※ 実施内容に関しては、今までの調理作業の状況から判断し、レベルアップの必要があると思われる内容をチョイスして実施。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第14回	<b>【2】－4 総合演習</b> 1. 基礎実技<A～C>の中からアトランダムに1品チョイスし、基礎実技の練習 2. 指定調理<A～C>の中からアトランダムに1品チョイスし、指定調理の練習 ※ 実施内容に関しては、今までの調理作業の状況から判断し、レベルアップの必要があると思われる内容をチョイスして実施。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間



第15回

**実技テスト ・ 授業内課題**

【実技テスト】  
この授業内で学んだの1品を、すべての作業を一人で行う“ワ  
ンセルフ実習”形式にて実施。  
【授業内課題】  
この授業内で学んだ調理手順・調理作業とそのポイント・調理  
用語等に関する確認テストを実施。

授業内容を記入した授業プリントのまと  
め、並びにファイリング

1時間

授業科目名	フードコーディネート論				
担当教員名	草尾 賀子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義&演習				

開放科目の指示：「不可」

## 授業概要

これからフードコーディネートコースで学び、フードコーディネーター3級を取得するための基礎力を養う。まず、フードコーディネートとはどのようなものであるか、またフードコーディネートの必要性を理解するところから始め、豊かで快適な食空間の演出法や、各国の食文化やメニュープランニング、マナー、フードマネジメントなどフードコーディネートに関する分野を幅広くを学び、フードコーディネーターおよび食のスペシャリストとして必要な知識と企画力を身につける。

## 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	フードコーディネートに関する知識	フードコーディネーターに必要なフードコーディネートの基礎知識を習得することができる。
<b>汎用的な力</b>		
1．DP5. 計画・立案力		食の企画やフードコーディネートのアイデアを発想する力を養うことができる。
2．DP6. 行動・実践		自分で建てた企画をプレゼンテーションし、実践できる力を身につけることができる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

1. 授業への取り組み状況

### 評価の基準

積極的に学習しようとしているかを評価する。具体的な評価は独自にルーブリック（初回授業で配付）を用いて行う。

40%

2. 振り返りテスト

授業内容の理解度について振り返りテストを行い、合計30点満点とする。

30%

3. 課題レポート

教材の理解力、および授業内容を踏まえた論述・企画ができていくかどうかについて3段階で評価する。

30%

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本フードコーディネーター協会	2017年度版フードコーディネーター協会教本	柴田書店	2017年

## 参考文献等

三訂フードコーディネート論／日本フードスペシャリスト協会／建帛社

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜4限  
場所： フードコーディネート研究室

授業計画			授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	<b>フードコーディネーターとは</b>  ・授業の方針と学習方法を知る。 ・フードコーディネーターとは何かを理解する。 ・フードコーディネーターの仕事の内容を理解する。	将来フードコーディネーターをどのように活かしていきたいと考えているか600字程度で記述する。	4時間
第2回	<b>色彩とバランス</b>  ・フードコーディネーターにおける色彩の重要性を認識する。 ・色の三属性などカラーの基礎を学ぶ。 ・配色の基本を学ぶ。	色彩に関する授業課題を完成させる。テキスト下の第3回の授業内容の箇所を熟読しておく。	4時間
第3回	<b>日本の食事文化</b>  ・日本の食事文化の基礎を学ぶ。 ・主なもてなし料理の食事形式を学ぶ。	割り当てられた外国の食事文化について調べておく。	4時間
第4回	<b>外国の食事文化</b>  ・中国の食事文化の基礎を学ぶ。 ・フランス、イタリアの食事文化の基礎を学ぶ。 ・その他の国の食事文化の基礎を学ぶ。	割り当てられた歳時や記念日とそれぞれの代表的な食事を調べておく。	4時間
第5回	<b>日本および外国の歳時記と食卓</b> ・日本の人生儀礼と年中行事ならびにそれぞれの代表的な食物について学ぶ。 ・外国の記念日とその代表的な食物について学ぶ。	授業内容に関する課題を完成させておく。	4時間
第6回	<b>メニュープランニングの基礎</b>  ・メニュープランニングの基礎的知識を学ぶ。 ・フランス料理とイタリア料理のメニューの様式を学ぶ。	フランス料理とイタリア料理に関する課題プリントを完成させておく。	4時間
第7回	<b>メニュープランニングの実践</b>  ・店舗のメニュープランニングの基礎を学ぶ。 ・プランニングシートの記入方法を学ぶ。	プランニングシートを用いて示された条件でメニュープランニングをする。	4時間
第8回	<b>テーブルウェア（リネン、プレート）</b> ・食卓用リネンの種類や使い方について学ぶ。 ・プレートの種類と使い方を学ぶ。	ナプキンワークの練習をしておく。	4時間
第9回	<b>テーブルウェア（カトラリー、グラス他）</b> ・カトラリーの種類と使い方を学ぶ。 ・グラスの種類と使い方を学ぶ。 ・その他のテーブルウェアについて学ぶ。	西洋のカトラリーの歴史を調べてまとめる。	4時間
第10回	<b>テーブルセッティング</b>  ・西洋料理のテーブルセッティングを学ぶ。 ・日本料理のテーブルセッティングを学ぶ。	第11回授業ないで行う実技試験に備えて、西洋料理と日本料理の基本的なテーブルセッティングができるようトレーニングしておく。	4時間
第11回	<b>食卓のサービスとマナー</b>  ・テーブルセッティングの実技試験を行う。 ・食卓のサービスの基礎を学ぶ。 ・食卓でのマナーについて学ぶ。	テーブルマナー学外授業で実践できるようマナーの復習をする。	4時間
第12回	<b>テーブルコーディネーター</b>  ・テーブルコーディネーターとは何かを学ぶ。 ・テーブルコーディネーター技法の基礎を実践する。	授業内で行ったテーブルコーディネーターのコンセプトを完成させておく。	4時間
第13回	<b>食企画の基本</b> ・食企画の基本を学ぶ。 ・食企画の演出を体験する。	食企画についての発表の準備をしておく。	4時間
第14回	<b>食企画の発表、食情報と食育</b> ・食の企画を発表する。 ・食情報とリテラシーについて学ぶ。 ・日本の食育について学ぶ。 ・外国の食育の現状を知る。	食育についての自分の考えをまとめておく。	4時間
第15回	<b>振り返りテストと解説</b> ・振り返りテストとその解説を行う。	この授業の総復習を行う。	4時間

授業科目名	レストランサービス論				
担当教員名	三田 卓司 ・ 柴田 勉				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、普段利用しているカフェレストランから、普段はなかなか利用することのないフレンチ、並びにイタリアンレストランでのサービスの基本に重点を置き、それぞれのサービスにおけるポイント、並びに注意点などの知識をしっかりと体系付けた形で学んだ上で、次のステップである“レストランサービス実習”の授業における、それらの学んだ知識を活用したレストランサービスの実習（実践）がスムーズに実施できるベースを構築するための知識について学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	レストランサービスの専門知識；レストランにおける飲料提供や接客の理論と方法についての知識	理論〔座学〕と実践〔実習〕で高等技術の修得を図り、授業内にて少テストを行い、60点以上の得点を得ることができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	食生活において必要なマナー	各種マナーの内容を講義に挿入し、授業内にて少テストを行い、60点以上の得点を得ることができる。
<b>汎用的な力</b>		
1．DP6. 行動・実践		社会人としての挨拶ができる
2．DP6. 行動・実践		接客ができる
3．DP6. 行動・実践		しゃべり方の基本ができる
4．DP6. 行動・実践		マナーの実践ができる
5．DP6. 行動・実践		基礎的な経営の基本ができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法	評価の基準
授業内小テスト	： 本授業で学んだ知識に関して、授業の内容が実施のタイミングに至った際に小テストを実施し、独自のルーブリックに基づいて評価する。
60%	
振り返りテスト	： 本授業で学んだ知識に関する振り返りテストを実施し、独自のルーブリックに基づいて評価する。
20%	
受講状況	： 各回の授業への積極的な参加や、受講態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
20%	

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本HRS技能協会	・ 西洋料理 料飲接客サービス技法	・ 職業訓練教材研究会	・ 2017年

### 参考文献等

- ◆ 食材写真ファイル [配布資料]
- ◆ レストランサービススタンダードマニュアル [一般社団法人 日本ホテル・レストランサービス技能協会]
- ◆ 西洋料理の食卓作法 [一般社団法人 日本ホテル・レストランサービス技能協会]
- ◆ 日本料理の食卓作法 [一般社団法人 日本ホテル・レストランサービス技能協会]
- ◆ 中国料理の食卓作法 [一般社団法人 日本ホテル・レストランサービス技能協会]

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 [授業外学修課題]に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。  
 また、[授業内マナー]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： フードコーディネーター研究室 [本館3階] のフードコーディネーターコース専任教員に相談し、対応を依頼。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>レストランサービス技能士の資格について</b> HRS サービス技能士3級の資格取得の意義 学科試験をクリアして実技試験の合格に至るまでの流れ プロのサービス技能士になる為の意識付け（サービスマインド、知識、技術の三位一体） 接客6大用語の学習	今回の授業内容ページのテキスト読み込み 4時間
第2回	<b>西洋料理に使用する食材について</b> オードブル・スープ・ポワソン・ヴィアンド・デセールまで 副教材の食材写真を見ながらの解説 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第3回	<b>西洋料理調理法について</b> 焼く、蒸す、煮るの内容と仏語について 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第4回	<b>飲料の種類と特徴について 【1】 ブランデー、ウイスキー、リキュール</b> ブランデー、ウイスキー、リキュールについて 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第5回	<b>飲料の種類と特徴について 【2】 ワインの分類と主要品種</b> ワインの分類と主要品種について 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第6回	<b>食器とテーブルセットについて</b> 西洋料理の食器（銀食器、陶磁器、ガラス容器）とコースのセッティング 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第7回	<b>客席案内とメニューの諸規則について</b> お客様を迎えるにあたっての心得並びに「セットメニュー」と「アラカルト」について 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第8回	<b>宴会の種類とレストランサービスについて</b> パーティーの種類とレストランのサービス方法について 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第9回	<b>注文の受け方とテーブルサービス</b> オーダーテイクの基本について（メモを取り、復唱・実践） 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第10回	<b>マナーとメニュー管理について</b> 座学でのテーブルマナー並びにレストランの利用について 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第11回	<b>食文化について</b> 西洋料理の変遷について 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第12回	<b>プロトコルの意味と必要性について</b> プロトコル5原則と国旗掲揚について 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第13回	<b>不良客の扱いと苦情処理</b> 苦情の原因と対応事例について 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第14回	<b>食品衛生と施設管理について</b> 食品衛生と施設管理について 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間
第15回	<b>労働安全と労働災害について</b> 労働安全と労働災害について 講義後小テスト 解説を付けて答え合わせ [本授業の総括]	今回の授業内容ページのテキスト読み込み、並びに小テストの復習 4時間

授業科目名	<b>調理学実験</b>				
担当教員名	川原 早苗				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実験				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

調理学の授業で、おいしい食べ物を作るためのコツや手順の元になる理論を学び、調理学実習でより適切な調理法を学ぶが、それらがどのように結びつくのかを実験を通して確認し、理解を深める。そして実際の調理に生かせるように、確実に身につけることを目標とする。また基本的な実験を通して、実験器具の扱いに慣れ、班内で協力して実験を進め、正確に記録し、実験結果から科学的な判断を行い、適切なレポートを作成するという実験の流れを身につけ、実践する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	調理方法や食品の調理に関する基礎知識	調理方法の特徴、調味の方法、食品の調理上の特性を理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	知識を実際の調理につなげる	実験によって、学んだ理論を検証し調理に生かすことができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		テーマごとの問題点を明確にすることができる。
2．DP6. 行動・実践		演習や実験の手順を理解し、協力して進めることができる。
3．DP8. 意思疎通		班内で結果を共有し、意見を出し合い、考察することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

実験レポート

#### 評価の基準

： 4点×15回  
結果が記録されている：2点  
結果を自分の言葉でまとめられている：3点  
自分の意見を含めた考察がなされている：4点

60%

振り返りテスト

： 知識に関する筆記テストを行い、理解度を評価する。

40%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

調理科学実験／早瀬仁美他／医歯薬出版  
食事設計と栄養のための調理科学実験／奥田弘枝他／光生館

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後  
場所： 授業教室、フードコーディネート研究室  
備考・注意事項： 質問は授業の前後、またはメールで対応する。  
アドレス：kawahara@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

第1回

#### 授業について・パーセントの計算

実験に必要な簡単なパーセントの計算を確認する。

レポート作成

授業外学修課題にか  
かかる目安の時間

4時間

第2回	<b>測る①（重量・体積）</b> 計量カップや計量スプーンにより計量できる食品の目安量を知り、測定条件による誤差を知る。	レポート作成	4時間
第3回	<b>測る②（温度）</b> 1・温度低下が器の状態（あたため）でどのように変わるかを知る。 2・紅茶と煎茶の入れ方の相違を知る。	レポート作成	4時間
第4回	<b>砂糖の加熱による変化</b> 1. 砂糖液を加熱し、温度上昇に伴う性状の変化を調べる。 2. 濃厚な砂糖液をかき混ぜてショ糖を再結晶させ、フォンダン、糖衣の要領を知る。	レポート作成	4時間
第5回	<b>米の浸漬</b> 米の吸水量に及ぼす浸漬液の温度と浸漬時間、および浸漬液に添加する調味料の影響を調べる。	レポート作成	4時間
第6回	<b>小麦粉①（類）</b> 小麦粉の種類（薄力・中力・強力）によってグルテンの量が異なり、性質が異なることを知る。	レポート作成	4時間
第7回	<b>小麦粉②（スポンジケーキ）</b> スポンジケーキは小麦粉・卵・砂糖を主原料とする。その材料の割合を変えるとどの様に出来上がりがらうか、それによって材料の役割を知る。	レポート作成	4時間
第8回	<b>小麦粉③（クッキー）</b> 異なる油脂を用いたクッキーの性状について知る。	レポート作成	4時間
第9回	<b>ゼリー（寒天とゼラチン）</b> 寒天とゼラチンはどちらもゼリーの材料として使われるが、各々の原料は異なり、濃度・凝固温度やゼリーの性質は異なる。両者の特徴を実験を通して知る。また、砂糖・果汁を加えることによるゼリーの性質の変化を知る。	レポート作成	4時間
第10回	<b>フレンチドレッシング・マヨネーズ</b> フレンチドレッシングの安定度に関係する材料配合の影響を知る。また、マヨネーズの作り方および失敗した時の修正方法を知る。	レポート作成	4時間
第11回	<b>学外授業</b> 大阪・池田のインスタントラーメン発明記念館に行き、チキンラーメン手作り体験をする。	レポート作成	4時間
第12回	<b>シュークリームのシューの焼き方</b> シュークリームの皮であるシューは、焼き方によって、でき・できがかなり左右される。焙焼温度と時間の影響を検討する。	レポート作成	4時間
第13回	<b>揚げる</b> 揚げ物は、揚げる材料、衣、油などの総合されたおいしさがあるが、揚げる時の条件によって出来上がりに影響が出る。素揚げと衣揚げの違い、揚げる時の温度変化、水分蒸発と油の吸収等を知る。	レポート作成	4時間
第14回	<b>ハンバーグステーキの副材料</b> ハンバーグステーキを作り、肉への添加材料（タマネギ・パン）の役割を知る。	レポート作成	4時間
第15回	<b>振り返りテストと解説</b> 振り返りテストを行い、解説を行う。	欠席回も含めてレポートを揃え、今期学んだことの総復習をする。	4時間

授業科目名	レストランサービス学外実習				
担当教員名	坂根 正史				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、“レストランサービス論”の授業において、しっかりと体系付けた形で学んだカフェレストランから、フレンチ、及びイタリアンレストランでのサービスにおけるの基本的な知識を、実際の現場（事業所）において最大限に活用しながら実習（実践）することにより、それぞれの事業所での一日の流れや、実践的な接客方法を学びながら、個々の今後のサービスを学ぶものとしての取り組み課題を明確にし、より一層ホスピタリティーマインドを兼ね備えた、サービスのプロとなるための知識・技能について学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	『レストランサービス』に関する知識・技能	サービスのプロとなるための知識・技能を理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	『レストランサービス』に関する知識・技能の実践力	サービスのプロとなるための知識・技能を実践することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		サービスのプロとなるための知識・技能を実践することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

実習先の評価	評価の基準
80%	実習先の担当者に、独自のルーブリックにあてはめた評価をしていただき、その評価を反映させる。
20%	実習への積極的な参加や、実施態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、全体で45時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、事前準備や事後の振り返りにも十分に力を入れること。  
また、[授業内マナー]、並びに[実習授業時の心得え]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜1限
場所：	フードコーディネート研究室（本館3階）
備考・注意事項：	上記の時間帯以外にも研究室にいることはありますが、不在の場合には、メールでも対応します。 なお、メールを送信する場合は、件名に[学籍番号・名前]、本文に[内容]を明記するようにしてください。 ※メールアドレス sakane@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

回	内容	学んだ内容を“実習ノート”にまとめる	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>実習先との事前打ち合わせ</b> 学外授業実施に向けて、実習先との打ち合わせを行い、スムーズに実施することができるようする。	学んだ内容を“実習ノート”にまとめる	1時間
第2回	<b>7日間の実習先での実習</b> 一日の流れ、並びに実践的な接客方法を学び、現場におけるサービスの知識・技術の習得を目指す。	実習先で実施した内容、並びに学んだことについてまとめる	1時間
第3回	<b>“実習ノート”の記入と提出</b> 実施期間中の各日程における一日の流れ、並びに実践において体験した接客方法等に関して、指定の“実習ノート”に記入する。	“実習ノート”のまとめの部分を仕上げる	1時間



第4回

**“お礼状”の送付**

お世話になったスタッフの方々に対し、心からの感謝の意を込めて、“お礼状”を送付。

正しい御礼状の書き方についてしっかりと調べ、理想的な御礼状を作成し、実習先に送付

1時間

授業科目名	フードビジネスセミナー				
担当教員名	山岡 正弘				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業は卒業後に就職や独立などを通してフードビジネス業界で活躍するための能力を養う。前半は、自己分析や業界研究の方法や進路選択に必要な就職活動に関するさまざまな基礎知識を学ぶ。自分のキャリアデザインを明確にし、学生生活で身につけるべき能力や、伸ばすべき能力を見極めるためである。後半は、フードビジネスの現場で活躍する職業人をゲストとして招き、各業界の現状や求められる力について話を聞きながら業界に関する理解を深め、自らの就職における方向性を定められるようにする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	フードビジネス全般の仕事のスキル	自身に合った職種を選定
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	業界の基礎を習得	目標の設定
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		専門的な内容を理解する
2．DP5.計画・立案力		キャリアデザインの構築
3．DP6.行動・実践		キャリアデザインの構築

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・その他(以下に概要を記述)  
業界人より、実践的な業界事情を解説していただく。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への取り組み状況	50%	遅刻、早退などの出席状況や授業内マナーなどを独自のルーブリックを基に評価する。
授業への積極的参加	30%	授業中の質問やコメントなど授業への参加状況を独自のルーブリックを基に評価する。
提出物	20%	指定提出物の完成度を独自のルーブリックを基に評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

日経流通新聞記事、フード業界HPなど

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後  
場所： 授業の教室  
備考・注意事項： 質問は授業時間の前後、またはメールで受け付ける。

Food Business Consulting Office PPP yamaoka 代表 山岡 正弘  
アドレス：ppp-yamaoka@ares.eonet.ne.jp

※件名または本文に、学生番号と氏名を必ず入れること。

### 授業計画

第1回

フードコーディネーターって何？

非営利活動法人日本フードコーディネーター協会HPの閲覧

授業外学修課題にかかると目安の時間

1時間

	1. フードコーディネーターとは 2. フードコーディネータースキルを活かした実例の紹介		
第2回	<b>フードコーディネーター資格試験について</b> 非営利活動法人日本フードコーディネーター協会認定試験3級～1級に至るまでの無い様について解説と必要性	非営利活動法人日本フードコーディネーター協会HPの閲覧	1時間
第3回	<b>現時点での目標をまとめる</b> 現時点でのキャリアデザインの方向性をまとめる	現時点での目標をまとめる	1時間
第4回	<b>ホテル業界の現状と、フードコーディネーターの活躍の場と今後の展開について (1) 業界理解</b> タイプ別のホテルを紹介をする。 ホテルプランの紹介をする。	日本国内のホテルHPを閲覧する	1時間
第5回	<b>ホテル業界の現状と、フードコーディネーターの活躍の場と今後の展開について (2) 職種とスキル</b> ホテル内での職種の紹介とそれに必要なスキルについて解説をする。	日本国内のホテルHPを閲覧し、職種をチェックする	1時間
第6回	<b>ブライダルビジネスの現状と、フードコーディネーターの活躍の場と今後の展開について (1) 業界理解</b> 日本におけるブライダルビジネス（ホテル・専門）の概略を解説する。	ブライダル雑誌等を見ておく	1時間
第7回	<b>ブライダルビジネスの現状と、フードコーディネーターの活躍の場と今後の展開について (2) 職種理解</b> ブライダルでの職種について解説をする。	ブライダル雑誌等を見ておく	1時間
第8回	<b>製パン製造におけるフードコーディネーターの活躍の場と今後の展開について</b> 個人店、中大企業を例に解説をする。	人気製パン製造についてチェックしておく	1時間
第9回	<b>製菓製造におけるフードコーディネーターの活躍の場と今後の展開について</b> 人気製菓製造企業を例に解説をする。	人気製菓企業を調べておく	1時間
第10回	<b>食品製造におけるフードコーディネーターの活躍の場と今後の展開について</b> 人気企業を例に解説をする。	デパ地下お惣菜店を調査する	1時間
第11回	<b>イベント・メディアにおけるフードコーディネーターの活躍の場と今後の展開について</b> 今後、伸びていくイベント・メディアのポイントについて解説をする。	食ビジネスにイベント・メディアの関わりについてPC等で検索しておく	1時間
第12回	<b>クッキングスクールにおけるフードコーディネーターの活躍の場と今後の展開について</b> クッキングスクール企業の取組みを例に解説をする。	法人・個人での料理教室の違いについてまとめておく	1時間
第13回	<b>内定者の話を聞く①</b> 内定に至るまでのプロセスを聞く。	質問内容を考えておく	1時間
第14回	<b>内定者の話を聞く②</b> 内定に至るまでのプロセスを聞く。	質問内容を考えておく	1時間
第15回	<b>総括 自分のキャリアデザインマップの作成</b> 初回に作成した履歴書を見直し。もう一度志望動機や自己PRについて作成します。	自身のキャリアデザインについてまとめておく	1時間

授業科目名	<b>販売論</b>				
担当教員名	宮内 さよ子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義&演習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

1. テキストプログラム&プラクティカルプログラムを通じて、販売・経営とはどのようなものなのか、また、販売員とはどんな目的と役割を持った職業なのかを知識だけではなく、生きた知恵と行動をライブで感じ、習得できるようにプログラムしている。
2. 授業のすべてのプログラムをコンテストの対象として、①ラーニング部門 ②アート部門 ④ショップ部門 ④販売論大賞 の4部門を設け、最終回に優秀者の表彰を行い、それらを成績に反映する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	流通業界のしくみを理解し、社会で活かされるレベルまで知識&技術を習得する。	ナンバーワンでオンリーワンのトップ販売士を目標に、販売士検定試験3級合格を目指す。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	ラッピング・POP作成、ディスプレイ、接客対応、マーケティングなど、他業界でも必須のスキルを身につける。	流通業界に限らず、どんな業界にも活かされるスキルを持ったセールスパーソンを育成する。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		お客様の悩みや問題、店舗経営上の改善点などに気づきや発見ができ、どうすれば解決できるかという洞察力を養う。
2 . DP5. 計画・立案力		問題点などを解決できる戦略を計画したり、立案できる思考力と創造力を養う。
3 . DP6. 行動・実践		計画した戦略を具体的に実践していくための各々の戦術を確実に実践できる実行力を養う。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・その他(以下に概要を記述)
  - ①課題・・・様々な企業のマーケティング戦略を研究・レポートすることで社会や企業状況を分析する洞察力を養う。
  - ②実習&実務・・・販売現場で必須の(創作ラッピング、POPアート、ディスプレイ、接客ロールプレイング)を実践学習します。
  - ③協同学習・・・ショップづくりに必要なすべての準備をチームで協業し、コミュニケーション力を養います。
  - ④発表・・・チームで研究したレポートの発表をすることで、プレゼンテーション力を養います。
  - ⑤ロールプレイング・・・接客対応の学習として、チームのショップで販売風景のロールプレイングをします。
  - ⑥その他・・・授業カリキュラムをコンテスト式にして、モチベーションアップ、協業、競争力を図ります。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
  - ①実習や実技に対して個別または全体に向けてコメントをします。
  - ②提出物個々の作品にコメントを、最後に総評をコメントします。
  - ③コンテストの評価にコメントを、優秀な個人・チームに表彰状を贈ります。

### 成績評価

#### 注意事項等

- ①原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。
- ②規定以上の出席であっても、テストや実技を欠席及び、提出物(課題レポート、アート作品)が未提出の場合「S」となる可能性があります。

#### 成績評価の方法・評価の割合

	評価の基準
①ラーニング部門	: 振り返りテスト、課題レポート、接客用語、接客かたるetc ※(すべてを10段階で評価)
50%	
②プラクティカル部門	: アート作品(ラッピング、POP、プライスカード、ネームプレート) ショップディスプレイ、接客ロールプレイング ※(すべてを10段階で評価)
40%	
③授業態度	: ①ラーニング部門②プラクティカル部門に③授業態度(マナー授業への取り組み方、欠席、遅刻etc)を加味し、総合評価します。
10%	

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岡坂 寿人	・ リテールマーケティング（販売士）3級サブノート	・ イーイノベーション	・ 2016年

## 参考文献等

販売士ハンドブック（基礎編）販売士検定試験3級対応／株式会社キャリアック  
問題集は授業内で紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

- ①本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
- ②リテールマーケティング（販売士）受験をする学生は、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間：（金曜日）授業終了後
- 場所： 授業履修教室
- 備考・注意事項：（金曜日）授業終了後、学内にて時間の許す限り対応。  
受験等に関しては、受験対策補講日に全面的に対応。

## 授業計画

回	タイトル	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション（バーチャルショップ）</b>  オリエンテーション『バーチャルショップ本日開店！』 チーム編成・ショップ決定、e t c バーチャルショップのチーム編成、ショッププロフィール、ネームプレートの作成	4時間
第2回	<b>テキストプログラム①（小売業の役割）</b> テキストプログラム：小売業の種類（小売業の役割） 小売業が社会で果たしている様々な役割を学習します。	4時間
第3回	<b>テキストプログラム②（形態別小売業の種類）</b> テキストプログラム：小売業の種類（形態別小売業の種類） 小売業の構造と変化、種類や特徴、現状と課題などを実例をあげて学習します。	4時間
第4回	<b>テキストプログラム③（商品知識）</b> テキストプログラム：マーチャンドライジング（商品の基本・マーチャンドライジングの基本） 商品の品質やデザイン、商品計画（マーチャンドライジングサイクル）を学習します。	4時間
第5回	<b>テキストプログラム④（仕入・在庫・販売管理）</b> テキストプログラム：マーチャンドライジング（仕入管理、在庫管理、販売管理） 商品の（仕入・在庫・販売）管理、データの一元管理（IT化）を学習します。	4時間
第6回	<b>テキストプログラム⑤（店舗運営）</b> テキストプログラム：ストアオペレーション（小売業の1日の業務フローと店舗運営、包装技術） 開店準備～販売～閉店準備までの店舗の業務内容と流れ、商品包装を学習します。	4時間
第7回	<b>テキストプログラム⑥（ディスプレイ、作業割り当て）</b> テキストプログラム：ストアオペレーション（ディスプレイ、作業割り当て） ディスプレイの基本と様々なパターン、ワークスケジューリングについて学習します。	4時間
第8回	<b>テキストプログラム⑦（顧客満足、商圏・出店）</b> テキストプログラム：マーケティング（顧客満足、商圏・出店） 顧客に満足してもらえるプログラムや競争を意識した商圏や出店を学習します。	4時間
第9回	<b>テキストプログラム⑧（売場づくり）</b> テキストプログラム：マーケティング（リージョナルプロモーション、売場づくり） お客様に興味や感動をもたらす、喜ばれ・楽しんでもらえる販売促進や売場づくりを学習します。	4時間
第10回	<b>テキストプログラム⑨（販売員の役割・法令知識）</b> テキストプログラム：販売・経営管理（販売員の役割・法令知識） 販売員の役割、基本的な接客マナー、小売業に関連のある法令知識を学習します。	4時間
第11回	<b>テキストプログラム⑩（店舗管理）</b>	4時間

	テキストプログラム：販売・経営管理（計数管理・店舗管理） 小売店経営に必要な損益計算、店舗管理（万引き・衛生）等を学習します。		
第12回	<b>テキストプログラム①（計数管理）</b> 店舗経営には必須の計数管理（原価計算、損益計算）を演習します。 販売士の本試験では、マーチャンダイジング&販売・経営管理で出題されます。	電卓持参	4時間
第13回	<b>プラクティカルプログラム②アート実習（POP・ショップ看板etc）</b> プラクティカルプログラム：POPアート実習（POP、プライスカード、看板etc） ロールプレイングに向けて、店舗の看板、POP、プライスカード、等を作成します。	街で見かけるポスター、POP、ディスプレイ、ネット、雑誌等をよく観察して実習に活かしましょう	4時間
第14回	<b>プラクティカルプログラム②（ディスプレイ、ロールプレイング）</b> プラクティカルプログラム：バーチャルショップ本日開店！ （各チームロールプレイング） 販売論の総仕上げ、各チームのショップディスプレイ&ロールプレイングの発表！	接客対応で大切なポイントをチェックし、ロールプレイングに反映しましょう	4時間
第15回	<b>振り返りテストと解説</b> 振り返りテストを行い、解説を行う。 最後に、販売論コンテストの成績発表並びに受賞式を行う。	今期学んだこと（テキストプログラム&プラクティカルプログラム）の総復習を行う。	4時間

授業科目名	ラッピング演習 I				
担当教員名	草尾 賀子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示「不可」

### 授業概要

人は昔から贈り物をする習慣がある。贈り物は人と人のコミュニケーションをよくするものであり、心を結びつける役割がある。その贈り物に付加価値をつけ、演出を行うラッピングについて学ぶ。本授業では、ラッピングに関する決まりごとやラッピング方法の基礎的知識を学び、包装紙などを用いた箱やクリアケース、ビンなどを包む基本的なラッピング技術とリボンのかけ方、アレンジの技術を習得する。希望者はラッピング協会のラッピングコーディネーターの資格取得をめざす。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	贈り物の基礎知識とラッピングの基本技術	贈り物の種類や決まり事を理解し、基本的なラッピングをすることができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	贈り物に合わせたラッピングとアレンジ技術	贈り物の形体にあわせたラッピング用品の選択とラッピングのアレンジができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		ラッピングに関する決まり事を理解し、正しいラッピングができる。
2．DP7. 完遂		決められたルールに沿って贈り物にふさわしいラッピングを完成させることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

1. 授業への取り組み状況	30%	: 積極的に学習しようとしているかどうかと授業態度により総合的に評価する。
2. 授業内課題	30%	: 各回の課題の正確さ、完成度により3段階で評価する。
3. 確認テスト	10%	: 第8回に合わせ包みの実技試験を実施する。
4. 実技試験	30%	: 斜め包みとリボン掛けの正確さ、完成度を実技試験により5段階で独自のルーブリックを基に評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

ラッピング・マニュアル/ラッピング協会/食品研究社  
ラッピング・エレガンス/ラッピング協会/食品研究社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜4限  
場所： フードコーディネーター研究室

### 授業計画

第1回

#### 贈り物の概論

- ・贈り物の種類
- ・贈り物の歴史
- ・贈り物の役割
- ・贈り物の決まりごと
- ・袋を使ったラッピング

贈り物の課題プリントをする。

授業外学修課題にか  
かる目安の時間

1時間

第2回	<b>合わせ包みの基本</b> ・課題プリントの解答と解説 ・箱に合わせた合わせ包みの方法を習得する。	合わせ包みの復習をする。	1時間
第3回	<b>合わせ包みの応用</b> ・箱に合わせた包装紙のカットの仕方を習得する。 ・合わせ包みとその応用の包み方	授業内容を復習する。	1時間
第4回	<b>ふろしき包み</b> ・箱に合わせた包装紙のカットの仕方 ・ふろしき包みの包み方	ふろしき包みの包み方を復習する。	1時間
第5回	<b>斜め包み</b> 斜め包みの包み方を習得する。	斜め包みの包み方を復習する。	1時間
第6回	<b>斜め包みと表裏のないリボンのかけ方・結び方</b> ・斜め包みと箱に合わせた斜め包みの包装紙のカットの方法を習得する。 ・表裏のないリボンのかけ方・結び方（一文字かけ、V字かけ、斜めかけ、十字かけ）を習得する。	表裏のないリボンのかけ方を復習する。	1時間
第7回	<b>斜め包みと表裏のあるリボンのかけ方・結び方</b> ・斜め包みの完成度を上げる。 ・表裏のあるリボンのかけ方・結び方（一文字かけ、V字かけ、斜めかけ、十字かけ）を習得する。	表裏のあるリボンのかけ方を復習する。確認テストに備えて練習する。	1時間
第8回	<b>合わせ包みの確認テスト</b> ・合わせ包みの確認テスト ・リボンアレンジの仕方 （ダブルリボン、カーリングリボン、ウェーブボウ）	リボンアレンジの練習をする。	1時間
第9回	<b>ピローBOXの包み方</b> ・ピローBOXの包み方を習得する。 ・リボンローズの作り方を習得する。	授業内容を復習する。	1時間
第10回	<b>円柱の包み方</b> ・円柱に合わせた包装紙のカットの仕方を習得する。 ・円柱の包み方を習得する。	授業内容を復習する。	1時間
第11回	<b>クリスマス用ラッピング</b> クリスマス用のラッピング方法を習得する。	授業内容を復習する。	1時間
第12回	<b>和の儀礼の包みの基礎</b> ・折形についての基礎知識を身につける。 ・簡単な折形の折り方を習得する。	授業内容を復習する。	1時間
第13回	<b>和の儀礼の包みの応用</b> ・箸袋の作り方を習得する。 ・和のランチョンマットの作り方を習得する。	授業内容を習得する。第14回授業での作品の案を考えておく。	1時間
第14回	<b>ラッピングアレンジ</b> これまで学んだラッピングを応用して自分のオリジナルラッピングを作り、相互に評価する。	実技試験に備えて繰り返し練習する。	1時間
第15回	<b>まとめ、振り返りテスト、実技試験</b> ・斜め包みの実技試験 ・リボンかけの実技試験 ・贈り物についての振り返りテスト	今期学んだことを総復習する。	1時間



授業科目名	<b>食物学演習</b>				
担当教員名	草尾 賀子				
学年・コース等	2	開講時期	通年	単位数	2
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

前期は栄養価計算ソフトを用いて自らの理想的な食事とはどのようなものかを知り、健康を維持するための正しい食生活を営むことができるようになることを目標とする。各自の食事内容の調査と分析を行ない、自らの食生活を反省、検討、改善して栄養バランスの取れた食事メニューを作成する。後期は栄養価計算ソフトを用い、フードコーディネーターとして栄養バランスのとれた食事メニューの提案とさまざまな業種や業態に応じたメニュー提案ができ、それをプレゼンテーションできる能力を養う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	正しい食生活のための専門知識	自らの食生活を振り返り、健康的な食事とはどのようなものかを理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	食ビジネス業界における食の企画力	さまざまな業種・業態に応じた栄養バランスのとれた食事メニューの提案ができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自己の食生活を振り返り、課題を見出すことができる。
2．DP5. 計画・立案力		栄養バランスのとれた健康的な食事メニューの作成ができる。
3．DP6. 行動・実践		自己の食生活の改善を行い、栄養バランスのとれた健康的な食事メニューの提案ができる。
4．DP7. 完遂		指定の形式にそった資料を完成させることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

1. 授業内課題

#### 評価の基準

： 各回の授業内容を踏まえた内容、企画ができているかどうかを独自のルーブリックをもとに5段階で評価する。

40%

2. 課題発表

： 発表資料の正確さ、データ整理の正確さ、オリジナリティ、わかりやすさなどを独自のルーブリックをもとに5段階で評価する。

30%

3. 授業への取り組み状況

： 積極的に学習しようとしているか、受講態度を独自のルーブリックを基に判断する。

30%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

吉田企世子他／あたらしい栄養学／高橋書店

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は半期1単位、通年で2単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期：月曜4限、後期：金曜4限

場所： フードコーディネート研究室

### 授業計画

第1回

#### 演習の進め方と課題の設定

- ・この授業の方針と学習の方法を知る。
- ・この授業での各自の課題を認識する。

2日の食事内容を記録する。

授業外学修課題にかかる目安の時間

1時間

第2回	<b>食事内容の書き出しと食生活の課題</b> 自らの食事内容を詳細に書き出し、食生活の課題を見出す。	不足していた食品群の食品を調理して食べる。	1時間
第3回	<b>推定エネルギー必要量の算出</b> 各自の生活活動強度や推定エネルギー必要量を算出する。	課題を完成させておく。	1時間
第4回	<b>栄養価計算ソフトの使い方を学ぶ</b> パソコンの栄養価計算ソフトの使用方法を学ぶ。	課題を完成させておく。	1時間
第5回	<b>栄養価計算ソフトの使い方に慣れる</b> 栄養価計算ソフトを用いて実習メニューを栄養価計算する	課題を完成させておく。	1時間
第6回	<b>栄養価計算ソフトを活用して朝食メニューを考える</b> ・朝食の重要性を理解する。 ・栄養価計算ソフトを使用し、指定した条件で朝食メニューを考える。	課題を完成させておく。	1時間
第7回	<b>栄養価計算ソフトを活用して昼食メニューを考える</b> 栄養価計算ソフトを使用し、指定した条件で昼食メニューを考える。	課題を完成させておく。	1時間
第8回	<b>栄養価計算ソフトを活用して夕食メニューを考える</b> 栄養価計算ソフトを使用し、指定した条件で夕食メニューを考える。	課題を完成させておく。	1時間
第9回	<b>理想メニューの作成</b> これまでの授業をふまえて、自分にとって理想的なメニューを考える。	課題を完成させておく。	1時間
第10回	<b>理想メニューの検討</b> 栄養価計算ソフトを用いて、考えた理想メニューの検討を行う。	課題を完成させておく。	1時間
第11回	<b>理想メニューの改善を行う。</b> 栄養価計算ソフトを用いて、理想メニューを改善する。	課題を完成させておく。	1時間
第12回	<b>改善した理想メニューの考察</b> 改善した理想メニューについて、食材や栄養成分などの特性を調べる。	課題を完成させておく。	1時間
第13回	<b>プレゼンテーションのための準備</b> 理想メニューをプレゼンテーションするための資料を作成する。	プレゼンのための資料を完成させておく。	1時間
第14回	<b>プレゼンテーション（前半）</b> 作製した資料をもとに理想メニューのプレゼンテーションを行う。 プレゼンテーションを相互評価する。	食に関する課題プリントをしておく。	1時間
第15回	<b>プレゼンテーション（後半）</b> 作製した資料をもとに理想メニューのプレゼンテーションを行う。 プレゼンテーションを相互評価する。 食に関する課題プリントの解答と解説	第1～第15回の授業内容を復習し、すべての課題を見直してLドライブ内指定フォルダに提出する。	1時間
第16回	<b>後期授業の概要と前期の復習</b> ・後期授業概要説明 ・ソフトを用いての栄養価計算の復習	課題を完成させておく。	1時間
第17回	<b>栄養価計算表の印刷方法</b> ・A4用紙に編集して印刷する。	課題を完成させておく。	1時間
第18回	<b>製菓実習メニューの栄養価計算</b> 製菓実習のメニューレシピから栄養価計算する。	課題を完成させておく。	1時間
第19回	<b>店舗メニューの作成</b> 与えられた条件で店舗メニューの作成を行う。	課題を完成させておく。	1時間
第20回	<b>店舗メニューの栄養価計算</b> 与えられた条件で作成した店舗メニューを栄養価計算する。	課題を完成させておく。店舗メニューのプレゼンテーションの準備をしておく。	1時間
第21回	<b>カフェメニューの発表（1）</b> 各自が考えた店舗メニューをモニターを用いてプレゼンテーションする。	課題を完成させておく。店舗メニューのプレゼンテーションの準備をしておく。	1時間
第22回	<b>カフェメニューの発表（2）</b> 各自が考えた店舗メニューをモニターを用いてプレゼンテーションする。	授業内で配布する課題プリントをしておく。	1時間
第23回	<b>食のトレンドを理解する。</b> 最近の食のトレンドを理解する。	食のトレンド情報の発表準備をしておく。	1時間
第24回	<b>食のトレンド情報の発表</b> 各自で調べた食のトレンド情報を発表する。	フードコーディネーター教本のメニューの組み立ての項を熟読しておく。	1時間
第25回	<b>コース料理の組み立てとコース料理のメニュー作成</b> ・メニュー提案のための企画書の書き方を学ぶ。 ・コース料理の組み立てを復習し、季節のコース料理を作成する。	課題を進めておく。	1時間
第26回	<b>企画書とコース料理のメニューの完成</b> 季節のコース料理とその提案のための企画書を完成させる。	課題を完成させておく。	1時間
第27回	<b>コース料理のメニューの栄養価計算</b>	課題を完成させておく。	1時間

	季節のコース料理を作成し、栄養価計算する。		
第28回	<b>コース料理メニューの栄養価計算と発表準備</b> 季節のコース料理メニューの栄養価計算と発表の準備を行う。	課題の完成と発表の準備を行う。	1時間
第29回	<b>コース料理メニューの発表 (1)</b> 各自が考えたコース料理メニューをモニターを用いて発表する。	課題の完成と発表の準備を行う。	1時間
第30回	<b>コース料理メニューの発表 (2)</b> 各自が考えたコース料理メニューをモニターを用いて発表する。 すべての課題をLドライブ内指定の提出用フォルダに提出する。	授業内容の総復習を行う。	1時間

授業科目名	<b>栄養学Ⅲ</b>				
担当教員名	瀬川 悠紀子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

人は誕生してから、乳児期、幼児期、学齢期、思春期を経て青年期、成人期、高齢期にいたり一生を終える。それぞれのライフステージは全く異なる身体特性と栄養特性をもち、それぞれのライフステージが健全であってこそ、次のライフステージにおける心身の健康な発育が促されていく。本授業では、各ライフステージにおける人体の構造や機能の変化、栄養状態の変化などを理解し、対象者の身体機能に応じた栄養管理の基本を学びそれに対応したメニューや献立の構成を考える。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ライフステージに合わせた栄養の知識	様々な年齢、性別の人々に対し、適切な栄養量を考えることができる。
汎用的な力		
1 . DP5. 計画・立案力		各年齢、性別に適した食事を提案することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

各回の小テスト	20%	: 各回20点満点とする。得点の高いもの7回分の平均点で評価する。
振り返りテスト	40%	: 栄養学Ⅲで学んだ内容の振り返りテストを行う。
授業態度	30%	: 授業内での積極性及び取組状況で評価する。
課題レポート	10%	: 授業内で課題レポートを出し、10点満点で評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
上山恵子他	健康・栄養系教科書シリーズ6 応用栄養学	化学同人	2015年

### 参考文献等

日本食品成分表「五訂増補 食品成分表」／香川芳子／女子栄養大学出版部  
イラスト栄養学総論／城田知子／東京教学社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業の前後以外は、メールにて質問をうけます(アドレス：yukin.113@outlook.jp) メールには氏名と学籍番号を必ず入れてください。

### 授業計画

第1回	<b>食品成分表の活用の仕方</b> 食品成分表の活用方法を学び、食事の成分・カロリーを算出する。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	--	-------------------------------	-------------------------

第2回	<b>日本人の食事摂取基準について</b> 食事摂取基準とはなにか、その活用法とともに学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第3回	<b>栄養状態の判定について</b> 血液と尿の生化学的検査など各栄養状態の判定方法について学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第4回	<b>母性栄養・妊娠授乳期の特性</b> 妊娠の成立から出産・授乳までの母性と胎児の変化と成長について学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第5回	<b>母性栄養・妊娠授乳期の栄養</b> 妊娠・授乳期の栄養の特徴や食事のポイント、栄養ケアについて学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第6回	<b>母性栄養・妊娠授乳期の食生活、病態と対処方法</b> 妊娠期に起こりやすい病態とその対処方法や食事法について学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第7回	<b>新生児期・乳児期の特性</b> 0歳から1歳までの乳児期の特性について学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第8回	<b>新生児期・乳児期の栄養と食生活</b> 乳児期の栄養、母乳・人工乳と離乳食などを学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第9回	<b>幼児期の特性</b> 2歳から6歳までの幼児期の特性について学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第10回	<b>幼児期の栄養と食生活</b> 幼児期の栄養について、おやつなどの食事のとり方、栄養管理・食習慣・食育などを学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第11回	<b>学童期の特性</b> 小学生の特性・食生活について学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第12回	<b>学童期の栄養・食生活</b> 小学生の栄養について学校給食や肥満などの食習慣について学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第13回	<b>思春期の特性</b> 中・高生の特性や栄養について学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第14回	<b>成人期の特性・栄養・食生活</b> 成人期の栄養について生活習慣病・メタボリックシンドロームなどの予防を中心に学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第15回	<b>高齢期の特性・栄養・食生活、振り返りテストと解説</b> 65歳以上の高齢期の特性と加齢・老化に伴う栄養や食事・生活の注意点、改善方法などを学ぶ。 さらに栄養学Ⅲでこれまで学んだ内容の振り返りテストを実施し、解説を行う。	配布プリントとテキストを復習する。	4時間

授業科目名	<b>食品加工学</b>				
担当教員名	玉田 真紀				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では私たちの食生活に欠かすことのできないさまざまな食品や加工食品について、前半は食品はどのような原因で変質するのか、それを防ぐためにどのような工夫が行われているかという食品加工に関する基本知識を習得する。次に、後半では、グループ単位で身近な加工食品を取り上げ、その食品がどのような加工技術を利用して、作られたものであるかを実際に文献、参考書等で調べ、その結果をレポートにまとめて発表する。そして、みんなでそれぞれの加工食品の特色とその活用法について考える。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	食品加工についての専門的知識を学ぶ。これまでに学んだ食品学、衛生学などをもとに加工食品についての知識を向上させる。	食品加工の知識を習得し、将来実際に生かすことができることを目標とする。
汎用的な力		
1 . DP9. 役割理解・連携行動		グループで、資料作成などを行う。自分たちで役割を決め、協力して発表することを目標とする。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題 40%	: 授業内の課題及び発表用資料作成の完成度で評価する。
振り返りテスト 40%	: 授業内で行う振り返りテストで評価する。
積極的参加、遅刻状況、授業中マナー 20%	: 授業内での積極性および取り組み状況で評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
森孝夫	食品加工学実験書	化学同人	年

### 参考文献等

レクチャー食品加工学／黒川守浩／建帛社  
改訂 原色食品加工工程図鑑／井上四郎他／建帛社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業時間の前後
場所：	授業教室

### 授業計画

回数	内容	グループ内での役割分担についてをまとめて提出。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション</b> 授業の進め方について、グループ分け、グループでの役割分担加工食品に関するグループ討議	グループ内での役割分担についてをまとめて提出。	4時間
第2回	<b>食品の変質原因と制御について (1) - 変質原因 -</b> どんな変質原因があるのか、例を挙げて説明する。	食品の変質についてまとめる。	4時間
第3回	<b>食品の変質原因と制御について (2) - 変質の制御 -</b>	変質予防についての理解を深める。	4時間

	どうすれば変質せずに済むのかを考える。		
第4回	<b>加工食品の事例(1) - 冷凍食品 -</b> 冷凍食品の加工技術の特徴と品質表示 具体的な事例を挙げながら、加工技術を説明する。	身近な冷凍食品について調べる。	4時間
第5回	<b>加工食品の事例(2) - 日本酒 -</b> 日本酒の加工技術の特徴と品質表示 日本酒の種類、製法について	日本酒の種類についてまとめる。	4時間
第6回	<b>中間振り返りテストとこれまでの授業内容のまとめ</b> 第1～5回のまとめ、中間振り返りテストとその解説	振り返りテストの振り返り	4時間
第7回	<b>課題の発表(1)</b> 課題：マヨネーズ グループごとに発表、討議	発表グループは反省点、それ以外の人は発表についてよかった点をまとめる。	4時間
第8回	<b>課題の発表(2)</b> 課題：ハム、ソーセージ グループごとに発表、討議	発表グループは反省点、それ以外の人は発表についてよかった点をまとめる。	4時間
第9回	<b>課題の発表(3)</b> 課題：発酵乳 グループごとに発表、討議	発表グループは反省点、それ以外の人は発表についてよかった点をまとめる。	4時間
第10回	<b>課題の発表(4)</b> 課題：チーズ グループごとに発表、討議	発表グループは反省点、それ以外の人は発表についてよかった点をまとめる。	4時間
第11回	<b>課題の発表(5)</b> 課題：お茶類(ウーロン茶、緑茶) グループごとに発表、討議	発表グループは反省点、それ以外の人は発表についてよかった点をまとめる。	4時間
第12回	<b>課題の発表(6)</b> 課題：発酵食品(ビール、ワイン) グループごとに発表、討議	発表グループは反省点、それ以外の人は発表についてよかった点をまとめる。	4時間
第13回	<b>課題の発表(7)</b> 課題：発酵食品(味噌、しょうゆ) グループごとに発表、討議	発表グループは反省点、それ以外の人は発表についてよかった点をまとめる。	4時間
第14回	<b>課題の発表(8)</b> 課題：かまぼこ グループごとに発表、討議	発表グループは反省点、それ以外の人は発表についてよかった点をまとめる。	4時間
第15回	<b>振り返りテストとその解説</b> 振り返りテストとその解説を行う。	今期の授業内容の総復習をする。	4時間

授業科目名	<b>食文化概論</b>				
担当教員名	山田 久枝				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

食をコーディネートするためには、様々な食の知識が必要であり、食文化もその一つである。食文化とは、人間が築いてきた食に関する技術的、精神的な成果である。地域・民族によって多様な食文化が形成されてきた社会的背景を踏まえながら、料理面と食事行動面の両面から食文化について学び、さらに他の地域の食文化と比較することにより、文化相対的な見方を養い、異なる食文化に対する寛容で受容的な態度を培うことが大切である。また、今日の国際化時代における食と食文化の共通化、世界化現象を認識するとともに、一人一人が主体的に自

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	フードコーディネートの専門知識	食空間の演出、メニュープランニング、食文化についての知識を身につけることができる。 食と文化、日本や世界の食文化の知識を把握することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	職業理解	フードコーディネーターにおいて必要不可欠な日本及び世界の食文化の知識や、文化相対主義的な態度を習得し、自らの食文化を創造していくことができる。
汎用的な力		
1．DP9. 役割理解・連携行動		文化的素養を身につけ、食文化の文化的側面を理解することができる。
2．DP9. 役割理解・連携行動		食文化に関わる他領域の人々との関係性の中で、自らの役割を理解することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則3分の2以上出席の場合のみ成績評価の対象となる。  
30分以上の遅刻及び30分以上前からの早退は欠席とみなす。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
振り返りテスト	30% : 授業期間中に授業内容の振り返りテストを行う。
授業外課題レポート	25% : 第14回目の授業の口頭発表後にシラバス記載の課題レポートを提出する。期日厳守・A4レポート用紙2枚・手書き。参考文献を必ず記載。Webの参考論文だけのものは評価しない。ルーブリックに基づいて評価を行う
授業内課題レポート	15% : 毎回、授業内容に関連したレポート課題の提出を行う。ルーブリックに基づいて評価を行う。
授業態度	30% : 授業内での積極性及び取り組み状況 ルーブリックに基づいて評価を行う。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本フードコーディネーター協会編	新版フードコーディネーター教本	柴田書店	年

### 参考文献等

食文化入門／太田泰弘他／講談社  
日本食物史／樋口清之／柴田書店  
食の文化史／大塚滋／中公新書

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。



## オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後  
 場所： 授業の教室  
 備考・注意事項： 授業の前後以外でもメールにて質問等を受け付けます。メールには必ず氏名を明記して下さい。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<b>食の文化・歴史・風土の概説</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食文化の成り立ちについて学ぶ。</li> <li>・多様な食文化について知る。</li> <li>・食文化の共通化と国際化について理解する。</li> </ul>	教科書11～13ページを読み復習 4時間
第2回	<b>日本の食文化史1（原始・古代）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文・弥生時代の食文化を学ぶ。</li> <li>・古墳・飛鳥・奈良時代の食文化を学ぶ。</li> <li>・平安時代の食文化を学ぶ。</li> </ul>	・教科書13～14ページを読み復習・「自分の生まれ育った地域の郷土料理（発生源・歴史も含む）について」調べる。 4時間
第3回	<b>日本料理の歴史2（中世）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉時代の食文化を学ぶ。</li> <li>・室町時代の食文化を学ぶ。</li> <li>・安土・本能寺時代の食文化を学ぶ。</li> </ul>	教科書14～15ページを読み復習 4時間
第4回	<b>日本料理の歴史3（近世・近代・現代）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代の食文化を学ぶ。</li> <li>・明治・大正・昭和時代の食文化を学ぶ。</li> <li>・現代（第二次世界大戦以降）の食文化を学ぶ。</li> </ul>	教科書15～16ページを読み復習 4時間
第5回	<b>現代の食環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食環境の変化の要因を知る。</li> <li>・広がる私たちの食生活、食物はどこから来るのかを理解する。</li> <li>・食文化の未来を学ぶ。</li> </ul>	教科書16ページを読み復習 4時間
第6回	<b>日本料理の種類</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本料理の特徴を理解する。</li> <li>・日本料理様式（本膳料理、袱紗料理、精進料理、普茶料理、卓袱料理等）について学ぶ。</li> <li>・日本料理の調理技術、食事作法を知る。</li> </ul>	・教科書16～18ページを読み復習・「自分の生まれ育った地域や自分の家庭での雑煮について」調べる。 4時間
第7回	<b>日本料理の献立を立てる際の注意点・行事食</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の食生活の特徴を理解する。</li> <li>・食文化の地域性を知る。</li> <li>・行事食・伝統料理を学ぶ。</li> </ul>	教科書18～22ページを読み復習 4時間
第8回	<b>日本の郷土料理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国各地の郷土料理を知る。</li> <li>・郷土料理を学ぶことにより日本各地の食材を知る。</li> <li>・郷土料理を学ぶことにより日本各地の調味料、調理法を知る。</li> </ul>	教科書22～24ページを読み復習 4時間
第9回	<b>和菓子の歴史</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和菓子の歴史、特徴を知る。</li> <li>・年中行事と和菓子を理解する。</li> </ul>	教科書24～26ページを読み復習 4時間
第10回	<b>中国料理の歴史・種類・特徴・献立</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国料理の変遷、特徴を理解する。</li> <li>・四大料理（北京、上海、四川、広東）を学ぶ。</li> <li>・中国料理様式、調理技術、食事作法を学ぶ。</li> </ul>	教科書26～31ページを読み復習 4時間
第11回	<b>西洋料理の歴史・日本における西洋料理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代・ギリシア、ローマ時代の西洋料理の食文化を学ぶ。</li> <li>・中世・ルネサンス期時代の西洋料理の食文化を学ぶ。</li> <li>・17～19世紀時代、現代の西洋料理の食文化を学ぶ。</li> </ul>	教科書32～39ページを読み復習 4時間
第12回	<b>洋菓子の歴史・デザート・パンの歴史</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋菓子の歴史を学ぶ。</li> <li>・デザート・パンの歴史を学ぶ。</li> </ul>	教科書39～45ページを読み復習 4時間
第13回	<b>その他の国の料理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋料理の特徴、西洋各国料理（欧米各国）を学ぶ。</li> <li>・西洋料理様式を知る。</li> <li>・西洋料理の調理技術、食事作法を学ぶ。</li> </ul>	・教科書45～47ページを読み復習・「自分が興味深いと思う世界各地の民族の多種多様な料理について」調べる。 4時間
第14回	<b>その他の国の料理（エスニック各国）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの料理を知る。</li> <li>・中東の料理を知る。</li> <li>・中南米の料理を知る。</li> </ul>	・教科書47～48ページを読み復習・提出レポートの最終準備 4時間
第15回	<b>振り返りテストと解説</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りテストとその解説を行う。</li> </ul>	今期学んだことの総復習をする。 4時間

授業科目名	テーブルコーディネート実習 I				
担当教員名	草尾 賀子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

人が食事をより美味しく、楽しくするための快適な食空間を演出するためのテーブルコーディネートの方法を習得する。はじめに「フードコーディネート論」や「テーブルコーディネート実習Ⅱ」で学んだ基本的なセッティングのルールやテーブルウェアの知識等を復習し、実習を通して次第に自分の感性や個性を生かしたテーブルコーディネートを企画、演出できるようになること、さらには食卓を含めた食空間までコーディネートできるようになることを目標とする。最終授業日に卒業作品展を開催し、テーブルコーディネート作品を展示発表する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	食空間をコーディネートするための理論と方法を学び、さまざまな状況のコーディネート技能を身につける。	食空間コーディネートの重要性を理解し、状況に応じたコーディネートができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	食空間コーディネートの企画・実践力	個性や感性を活かした食空間コーディネートができる。
<b>汎用的な力</b>		
1．DP5. 計画・立案力		状況に応じた食空間コーディネートの企画ができる。
2．DP6. 行動・実践		効果的な食空間コーディネートのための分析や情報収集ができる。
3．DP7. 完遂		自らが企画した食空間コーディネートを完成させることができる。
4．DP8. 意思疎通		コーディネートに関する自分の意図や主張を伝えることができる。
5．DP9. 役割理解・連携行動		自分の個性を活かして他者と協力して食空間をコーディネートする能力を養うことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

1. 授業内課題	20%	: 授業内で制作するテーブルコーディネート作品の到達度で5段階評価する。
2. 卒業作品	40%	: 卒業作品展で制作するテーブルコーディネート作品の到達度で5段階評価する。
3. 課題レポート	10%	: 作品制作のための調べ学習などの課題の完成度で5段階評価する。
4. 授業への取り組み状況	30%	: 各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に判断する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

三訂フードコーディネート論／日本フードスペシャリスト協会編／建帛社  
 新版ードコーディネーター教本／日本フードコーディネーター協会編／柴田書店  
 TALK食空間コーディネーターテキスト3級／食空間コーディネート協会／優しい食卓

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜 4 限  
 場所： フードコーディネーター研究室

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる目安の時間
第1回	<b>テーブルコーディネートのとは</b> ・ 授業の方針と学習方法を知る。 ・ テーブルコーディネートのとは何かを理解する。 ・ 卒業作品展について概要説明とテーマ決定	卒業作品展のテーマについて調査して提出する。 1時間
第2回	<b>デザートの盛りつけとテーブルコーディネート</b> ・ パンナコッタの盛りつけをする。 ・ パンナコッタを引き立たせるコーディネートを実施する。	フードコーディネーター教本、食空間コーディネート3級テキストのアフタヌーンティーの項目を熟読しておく。 1時間
第3回	<b>アフタヌーンティーテーブル</b> ・ フィンガーサンド、スコーン、焼き菓子の実習 ・ 3段ケーキスタンドを用い、アフタヌーンティーテーブルを作成する。	ハロウィーンについて復習しておく。 1時間
第4回	<b>ハロウィーンテーブル</b> ・ ハロウィーンテーブルのプランニングをする。 ・ ハロウィーンテーブルのコーディネートの実施する。	コンテストのテーマを基にコーディネート案を考える。 1時間
第5回	<b>テーブルコーディネートコンテスト応募作品の制作</b> ・ 学外コンテストに応募するテーブルコーディネート作品を企画する。	応募用紙にコンセプト他を記入しておく。 1時間
第6回	<b>卒業作品展のテーブルコーディネートの企画</b> 卒業作品展のテーマに沿ったテーブルコーディネートの企画をする。	企画を完成させておく。 1時間
第7回	<b>ブライダル・ビュッフェテーブル</b> ・ ブライダルやビュッフェのテーブルの基礎的知識を学ぶ。 ・ ブライダルビュッフェテーブルを作成する。	授業内容を復習する。 1時間
第8回	<b>卒業作品展のテーブルコーディネート作品のメニュー決定と展示料理の材料発注</b> ・ テーブルコーディネート作品のメニューを考える。 ・ 展示料理を決定し、材料発注表を記入する。	材料発注表を完成させる。第9回学外授業で購入するリストを完成させておく。 1時間
第9回	<b>学外授業</b> 道具屋筋商店街にて卒業作品展の食器他を研究、購入する。	卒業作品展の展示料理の盛り付けを考え、スケッチしておく。 1時間
第10回	<b>クリスマステーブルとクリスマスケーキの企画</b> ・ クリスマスのテーブルコーディネートの復習 ・ クリスマステーブルとオリジナルクリスマスケーキの企画 ・ オリジナルクリスマスケーキの材料発注	第11回のクリスマステーブルのコーディネートを企画しておく。 1時間
第11回	<b>クリスマステーブルとクリスマスケーキの制作</b> ・ オリジナルクリスマスケーキを作成する。 ・ クリスマステーブルの作成を行う。 ・ ケーキとコーディネートを総合的に評価して順位をつける。	卒業作品展のテーブルコーディネート案を考える。 1時間
第12回	<b>卒業作品展の仮試作</b> ・ 卒業作品展のテーブルコーディネートの仮試作をする。 ・ テーブルウェアなどを決定する。	仮試作で発見した課題を解決しておく。 1時間
第13回	<b>卒業作品展の試作</b> ・ 卒業作品展のテーブルコーディネート作品を試作する。 ・ コーディネートの確認を行う。	試作で発見した課題を解決しておく。 1時間
第14回	<b>卒業作品展の最終試作</b> ・ 卒業作品展のテーブルコーディネート作品を試作する。 ・ 最終確認を行う。	試作で発見した課題を解決しておく。 1時間
第15回	<b>テーブルコーディネート卒業作品展</b> テーブルコーディネート卒業作品展を実施する。	全授業の総復習を行う。 1時間

授業科目名	<b>状態別栄養学実習</b>				
担当教員名	川原 早苗				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「可」

### 授業概要

健康な生活を送るためには適切な栄養の摂取が不可欠であるが、この授業では、人間の成長や老化にあわせた各ライフステージにおける栄養上の特性や身体的特徴的变化を学び、望ましい栄養摂取のための献立を実際に調理して、理解を深める。また、栄養が病気の発症や予防に大きく関与することから、治療食が重要な位置を占める疾患（食物アレルギー・貧血・肥満・骨粗鬆症・高血圧症・脂質異常症・糖尿病）を取り上げ、治療食を調理・試食することにより、その理解を深め、健康を維持することの大切さを考える。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ライフステージ、疾患にあわせた食事の知識を身につける。	ライフステージ、疾患にあわせた食事の特徴を理解し、調理することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	健康を維持するために必要なことを考える。	自分自身や周りの人、社会全体の健康を維持するための方法について考えることができる。
<b>汎用的な力</b>		
1．DP4. 課題発見		テーマごとの問題点を明確にすることができる。
2．DP6. 行動・実践		実習の手順を理解し、協力して進めることができる。
3．DP8. 意思疎通		班内で結果を共有し、意見を出し合い、考察することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

実習レポート

#### 評価の基準

4点×15回  
結果が記録されている：2点  
結果を自分の言葉でまとめられている：3点  
自分の意見を含めた考察がなされている：4点

60%

振り返りテスト

：知識に関する筆記テストを行い、理解度を評価する。

40%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

食事療法シリーズ1～10／中村孝司他／医歯薬出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。テーマにあわせて、実習した1日分の栄養価計算を課題とする。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後  
場所： 授業教室、フードコーディネート研究室  
備考・注意事項： 質問は授業の前後、またはメールで対応する。  
アドレス：kawahara@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

第1回

一般食（流動食・分粥食）

レポート作成

授業外学修課題にか  
かる目安の時間

1時間

	お粥を中心にした消化のよい食事の段階について学習し、調理する。		
第2回	<b>妊娠・授乳期の食事</b> 妊娠・授乳中の食事について学習し、調理する。	レポート作成	1時間
第3回	<b>乳児期の食事</b> 離乳食と調乳について学習し、調理する。	レポート作成	1時間
第4回	<b>幼児期の食事</b> 幼児期の食事について学習し、調理する。	レポート作成	1時間
第5回	<b>学童期の食事</b> 学童期の食事について学習し、調理する。	レポート作成	1時間
第6回	<b>高齢期の食事</b> 高齢期の食事について学習し、調理する。	レポート作成	1時間
第7回	<b>食物アレルギーの食事</b> 食物アレルギーについて学習し、原因となりやすい食品を除去した食事を調理する。	レポート作成	1時間
第8回	<b>肥満症の食事</b> 肥満とメタボリックシンドロームについて学習し、摂取エネルギーの少ない食事を調理する。	レポート作成	1時間
第9回	<b>糖尿病の食事</b> 糖尿病について学習し、低エネルギー甘味料などを用いて摂取エネルギーの少ない食事を調理する。	レポート作成	1時間
第10回	<b>鉄欠乏性貧血の食事</b> 鉄欠乏性貧血について学習し、鉄分を多く摂取できる食事を調理する。	レポート作成	1時間
第11回	<b>腎臓病の食事</b> 腎臓病について学習し、塩分・たんぱく質の少ない食事を調理する。	レポート作成	1時間
第12回	<b>高血圧症の食事</b> 高血圧について学習し、塩分・摂取エネルギーの少ない食事を調理する。	レポート作成	1時間
第13回	<b>脂質異常症の食事</b> 脂質異常症について学習し、コレステロールが少なく、食物繊維が多い食事を調理する。	レポート作成	1時間
第14回	<b>骨粗鬆症の食事</b> 骨粗鬆症について学習し、カルシウムが多い食事を調理する。	レポート作成	1時間
第15回	<b>振り返りテストと解説</b> 振り返りテストを行い、解説を行う。	欠席回も含めすべてのレポートを揃え、今期学んだことの総復習をする。	1時間

授業科目名	ラッピング演習Ⅱ				
担当教員名	草尾 賀子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

ラッピング演習Ⅰで学んだラッピングの基礎知識と技術を応用し、自分の個性やセンスを活かしたラッピング、特に食品の中でも贈り物としての頻度の高いお菓子をラッピングする技能を習得する。この授業は製菓実習Ⅰと連携し、製菓実習Ⅰの授業後に行うことで、実習したお菓子を実際にラッピングすることができる。そのため、お菓子を販売する際にラッピングする場合と似た状況でのラッピング演習が可能であり、お菓子を中心に贈り物に付加価値を付ける、ラッピングの実践的な知識と技能を身につける。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	和と洋のラッピングに関する知識と技術	ラッピングに関する決まり事を理解し、正確に包むことができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	用途に応じたラッピングを考えて贈り物として成立させる知識と技能	実習で作製したお菓子をラッピングして付加価値をつけることができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		ラッピングに関する決まりごとを理解し、正しいラッピングができる。
2．DP7. 完遂		決められたルールに沿って、贈り物にふさわしいオリジナル性のあるラッピングを考えて完成させることができる。
3．DP10. 忠恕の心		贈る相手の気持ちを考えたラッピングをすることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

30%

授業内課題

30%

確認テスト

10%

実技試験

30%

#### 評価の基準

： 積極的に学習しようとしているかどうかと授業態度により総合的に評価する。

： 各回の課題の正確さ、完成度により3段階で評価する。

： ラッピングの決まりごとなどのテストを実施する。

： 学修した技能を活かしたオリジナルなラッピングを実技試験とし、のデザイン性、正確さ、丁寧さを独自のルーブリックで評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

ラッピング・マニュアル/ラッピング協会/食品研究社  
ラッピング・エレガンス/ラッピング協会/食品研究社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜4限

場所： フードコーディネーター研究室

備考・注意事項： オフィスアワーは月曜4限、場所はフードコーディネーター研究室（本館3階）。

### 授業計画

⋮

∴ 授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	<b>ラッピング基礎技術の復習</b> ・合わせ包みと斜め包みの包み方を復習する。 ・リボンのかけ方の復習をする。 ・贈り物に関する決まり事を学ぶ。	授業内容を復習する。	1時間
第2回	<b>焼き菓子のラッピング (パン・ド・ジェーヌ)</b> ・パン・ド・ジェーヌをギフト用にラッピングする。 ・贈り物に関する決まりごとの確認テスト ・レタリングの基礎練習	授業内容を復習する。	1時間
第3回	<b>洋生菓子のラッピング (モンブラン)</b> ・モンブランをギフト用にラッピングする。 ・レタリングの練習	授業内容を復習する。	1時間
第4回	<b>洋生菓子のラッピング (チーズケーキ)</b> ・ブルーベリー・チーズケーキをギフト用にラッピングする。 ・レタリングの応用	授業内容を復習する。西洋菓子の課題プリントをする。	1時間
第5回	<b>洋生菓子のラッピング (ムース)</b> ・フランボワーズのムースをギフト用にラッピングする。 ・西洋各国の菓子を学ぶ。	授業内容を復習する。	1時間
第6回	<b>洋生菓子のラッピング (シュークリーム)</b> ・シュークリームとエクレアをギフト用にラッピングする。 ・西洋菓子の確認テスト	授業内容を復習する。	1時間
第7回	<b>洋生菓子のラッピング (ミルクレープ)</b> ・ミルクレープをギフト用にラッピングする。 ・季節のペーパークラフト	授業内容を復習する。	1時間
第8回	<b>洋生菓子のラッピング (バイクドチーズケーキ)</b> ・バイクドチーズケーキをギフト用にラッピングする。 ・季節のペーパークラフト	授業内容を復習する。	1時間
第9回	<b>焼き菓子のラッピング (アップルパイ)</b> ・アップルパイをギフト用にラッピングする。 ・季節のペーパークラフト	授業内容を復習する。	1時間
第10回	<b>和菓子のラッピング (いちご大福)</b> ・いちご大福をギフト用にラッピングする。 ・和の文様を学ぶ。	授業内容を復習する。	1時間
第11回	<b>和菓子のラッピング (どら焼き)</b> ・どら焼きをギフト用にラッピングする。 ・和の文様の確認テスト ・日本の行事とお菓子	授業内容を復習する。	1時間
第12回	<b>和菓子のラッピング (薯蕷饅頭)</b> ・薯蕷饅頭をギフト用にラッピングする。 ・日本の行事とお菓子の確認テスト	授業内容を復習する。	1時間
第13回	<b>和菓子のラッピング (栗饅頭・きんとん)</b> ・栗饅頭、きんとんをギフト用にラッピングする。 ・風呂敷の包み方	授業内容を復習する。	1時間
第14回	<b>和菓子のラッピング (練羊羹・きんつば)</b> ・練り羊羹、きんつばをギフト用にラッピングする。 ・熨斗紙の基礎知識	授業内容の復習	1時間
第15回	<b>全授業のまとめと実技試験</b> 全授業のまとめと実技試験の実施	全授業の総復習をする。	4時間

授業科目名	<b>食品加工学実習</b>				
担当教員名	川原 早苗				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

近年食生活は豊かになり、家庭で使われる食品もバラエティに富んでいる。しかし、かつては各家庭で作られていた味噌などの加工食品を作ることは少なくなり、買ってくるのが当たり前になっている。この授業では、日本古来の伝統食・保存食・その他家庭で手作り可能な加工食品（味噌・梅干し・豆腐・ジャム・パンなど）を取り上げ、余分な添加物を使わないで、家庭でできる方法で手作りする。その中で、保存食や加工食品がどのように作られているかの理論と方法を理解し、食生活のあり方について考える。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	テーマごとの加工食品の成り立ちを理解する。	各食品の製造原理や製造方法を理解して、加工することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	食生活の中の加工食品について考える。	現在の食生活に加工食品がどのように利用されているか、どのように利用していきたいかを考えることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		テーマごとの問題点を明確にすることができる。
2．DP6. 行動・実践		実習の手順を理解し、協力して進めることができる。
3．DP8. 意思疎通		班内で結果を共有し、意見を出し合い、考察することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

実習レポート

#### 評価の基準

： 5点×15  
途中経過が記録されていれば2点  
レポート内の課題ができていれば3点  
結果と感想をまとめられれば4点  
自分の意見を含めた考察ができていれば5点

75%

授業態度

： 前日準備や途中経過観察など授業時間外活動を含め、積極的な参加状態を総合的に評価する。

25%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

つくってみよう加工食品／仲尾玲子他／学文社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問は授業の前後、またはメールで対応する。

アドレス：kawahara@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

第1回

カッターチーズ ・ ベーグル

レポート作成

授業外学修課題に  
かかる目安の時間

1時間



	カッターチーズとベーグルを作り、ベーグルサンドを作って試食する。		
第2回	<b>味噌</b> 大豆・米麹・塩を使って、白・赤2種類の味噌を仕込み、約3ヶ月かけて発酵させて仕上げる。出来上がりまで、週2回程度観察し、カビなどの処置をする。	レポート作成	1時間
第3回	<b>たけのこ ・ ふきの瓶詰め</b> 旬の食材であるたけのこ・ふきのあく抜き、下処理をして、長期保存のため、瓶詰めを作る。	レポート作成	1時間
第4回	<b>いちごジャム ・ パンケーキ</b> 旬のいちごからジャムを作り、長期保存のため、瓶詰めにする。	レポート作成	1時間
第5回	<b>トマトケチャップ ・ ピザ</b> トマトペーストに調味料・香辛料を加えて煮詰め、トマトケチャップを作る。出来上がったトマトケチャップをソースにして、ピザを作る。	レポート作成	1時間
第6回	<b>豆腐</b> 大豆・にがりを使って木綿豆腐を作る。	レポート作成	1時間
第7回	<b>おからのケーキ</b> 豆腐の時にできたおからを使って、ケーキ・クッキー・ナゲット・ビスコッティを作り、おからを利用することを考える。	レポート作成	1時間
第8回	<b>がんもどき</b> 豆腐の加工食品として、がんもどきを作る。	レポート作成	1時間
第9回	<b>こしあん ・ 桜餅 ・ 生八つ橋</b> 小豆を圧力鍋で煮て、つぶしてから水でさらしてこしあんを作る。出来上がったこしあんを使って桜餅を作る。	レポート作成	1時間
第10回	<b>豚まん</b> ひき肉のあんをイースト菌を使った生地で包み、蒸し上げて豚まんを作る。	レポート作成	1時間
第11回	<b>梅干し</b> 塩分濃度の高い昔ながらの梅干しと、塩とはちみつで漬ける甘みのある梅干しの2種類を仕込み、約1ヶ月かけて漬けて仕上げる。	レポート作成	1時間
第12回	<b>手打ちうどん</b> 小麦粉・塩・水を捏ねてうどんを作る。ねかせ・伸ばし・切り・茹での工程を経て手打ちうどんを作る。	レポート作成	1時間
第13回	<b>ソーセージ</b> 配合を変えた3種類の材料を混合し、腸詰・茹での工程を経てソーセージを作る。	レポート作成	1時間
第14回	<b>メロンパン ・ ヨーグルト</b> 市販のプレーンヨーグルトを種菌として、砂糖などの添加物を変化させて、牛乳を約4時間発酵させてヨーグルトを作る。パン生地は機械で捏ねるが、クッキー生地を作り、成型・発酵・焼成の工程を経てメロンパンを作る。	レポート作成	1時間
第15回	<b>梅干し土用干し ・ まとめ</b> 前日から2日間かけて土用干しをして梅干しを仕上げ、完成した味噌とともに試食をする。	レポート作成	1時間

授業科目名	<b>製菓実習 I</b>				
担当教員名	坂根 正史				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、調理学実習 I・II の授業において、料理に並行して学んだお菓子の基本的な調理工程、並びに調理技法（テクニック）を、改めて専門的に反復実習（実践）を行うことによってしっかりと習得した上で、それらの基本的なお菓子の調理技法を応用したお菓子、並びにそれらを組み合わせたワンランク上のお菓子の作成を行いながら、ケーキショップで販売されている基本的なお菓子の作成ができるレベルの、製菓に関する知識・技能について学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	『製菓』に関する知識・技能	菓子の基本的な調理工程、並びに調理技法（テクニック）に関する知識・技能を理解することができる。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	『製菓』に関する知識・技能の実践力	菓子の基本的な調理工程、並びに調理技法（テクニック）に関する知識・技能を実践することができる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		菓子の基本的な調理工程、並びに調理技法（テクニック）に関する知識・技能を実践することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

実技テスト	80%	： 本授業で学んだ技術を活用し、ワンセルフ形式にて指定したお菓子の作成を行い、そのお菓子の出来栄を独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講状況	10%	： 各回の授業への積極的な参加や、受講態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
レポートの提出状況	10%	： レポート課題に対する理解度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 [授業外学修課題] に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 また、[授業内マナー]、並びに[実習授業時の心得え]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜1限
場所：	フードコーディネート研究室（本館3階）
備考・注意事項：	上記の時間帯以外にも研究室にいることはありますが、不在の場合には、メールでも対応します。 なお、メールを送信する場合は、件名に[学籍番号・名前]、本文に[内容]を明記するようにしてください。 ※メールアドレス sakane@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

第1回 [1] - 1 洋菓子の基本

授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング

授業外学修課題にか  
かる目安の時間

1時間

	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施概要の説明</li> <li>2. 洋菓子の基本の習得</li> <li>3. [実施内容] “ジェノワーズ (スポンジ生地)” の作成方法を習得。</li> <li>4. すべての調理作業を一人で行う“ワンセルフ実習”形式にて実施。</li> <li>5. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>		
第2回	<p><b>[1] - 2 洋菓子の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の習得</li> <li>2. [実施内容] “シュガーバター法” の作成方法を活用したデザートを作成。 ※ “パン・ド・ジェース”</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第3回	<p><b>[1] - 3 洋菓子の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の習得</li> <li>2. [実施内容] “シート (スポンジ生地のバリエーション)” を使用したデザートを作成。 ※ “エンブレラン”</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第4回	<p><b>[1] - 4 洋菓子の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の習得</li> <li>2. [実施内容] “ゼラチン” を使用したデザートを作成。 ※ “ブルーベリー・チーズケーキ”</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第5回	<p><b>[1] - 5 洋菓子の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の習得</li> <li>2. [実施内容] “ゼラチン” を使用したデザートを作成。 ※ “フランボワーズのムース”</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第6回	<p><b>[1] - 6 洋菓子の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の習得</li> <li>2. [実施内容] “シュー生地” を使用したデザートを作成。 ※ “シュークリーム” “エクレア”</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第7回	<p><b>[1] - 7 洋菓子の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の習得</li> <li>2. [実施内容] “クレープ生地” を使用したデザートを作成。 ※ “ミルクレープ”</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第8回	<p><b>[1] - 8 洋菓子の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の習得</li> <li>2. [実施内容] “ヘイクドチーズケーキ” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第9回	<p><b>[1] - 9 洋菓子の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の習得</li> <li>2. [実施内容] “パイ生地” を使用したデザートを作成。 ※ “アップルパイ”</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第10回	<p><b>[2] - 1 和菓子の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 和菓子の基本の習得</li> <li>2. [実施内容] “いちご大福” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第11回	<p><b>[2] - 2 和菓子の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 和菓子の基本の習得</li> <li>2. [実施内容] “どら焼き” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第12回	<p><b>[2] - 3 和菓子の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 和菓子の基本の習得</li> <li>2. [実施内容] “審預饅頭 (じょうよまんじゅう)” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第13回	<p><b>[2] - 4 和菓子の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 和菓子の基本の習得</li> <li>2. [実施内容] “栗饅頭” “きんとん” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルのな評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第14回	<p><b>[2] - 5 和菓子の基本</b></p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間

	<p>1. 和菓子の基本の習得  2. 「実施内容」 “煉り羊羹（ねりようかん）” を作成。  3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</p>	
第15回	<p><b>実技テスト ・ 振り返り</b></p> <p>【実技テスト】  この授業内で学んだ基本なお菓子の作成技術の中から1つをチョイスし、その基本なお菓子の作成技術の調理作業を、すべて一人で行う “ワンセルフ実習” 形式にて実施。</p> <p>【振り返り】  この授業内で学んだ基本なお菓子について、グループワーク形式での振り返りとまとめを実施。</p>	<p>授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング</p> <p>1時間</p>

授業科目名	調理学実習Ⅲ				
担当教員名	坂根 正史				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、調理学実習Ⅱの授業において学んだ、『調理の基本』、並びに基本的な調理作業や、素材別の調理の際における特性、及びその取り扱いに際しての注意点や、盛り付けの際の基本的なポイントなどの更なる応用力の向上を目指すと共に、各ジャンルにおける様々な料理を“ワンセルフ形式（すべての調理作業を一人で行うスタイル）”で行うことにより、応用力の向上のみならず、個々のレベルアップを目指した上で、オリジナルメニューの作成について学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	『オリジナルメニュー作成』に関する知識・技能	応用力の向上と、個々のレベルアップを目指した上で、オリジナルメニューの作成について理解する。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	『オリジナルメニュー作成』に関する知識・技能の実践力	応用力の向上と、個々のレベルアップを目指した上で、オリジナルメニューの作成について実践することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		応用力の向上と、個々のレベルアップを目指した上で、オリジナルメニューの作成について実践することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

実技テスト	80%	： 本授業で学んだ技術を活用し、ワンセルフ形式にて指定した料理の調理を行い、その料理の出来栄を独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講状況	10%	： 各回の授業への積極的な参加や、受講態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
レポートの提出状況	10%	： レポート課題に対する理解度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 [授業外学修課題] に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 また、[授業内マナー]、並びに[実習授業時の心得え]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜1限
場所：	フードコーディネート研究室（本館3階）
備考・注意事項：	上記の時間帯以外にも研究室にいることはありますが、不在の場合には、メールでも対応します。 なお、メールを送信する場合は、件名に[学籍番号・名前]、本文に[内容]を明記するようにしてください。 ※メールアドレス sakane@osaka-seikei.ac.jp ？

### 授業計画

第1回 [1] - 1 ワンセルフ実習

授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング

授業外学修課題にかかる目安の時間

1時間

	<p>1. すべての調理作業を一人でやる“ワンセルフ実習”形式にて実施。</p> <p>2. [実施メニュー] スパゲッティニ アッラ ボスカイオーラ (ツナとキノコ入りトマトソースのスパゲッティニ)</p> <p>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>		
第2回	<p><b>[1] - 2 ワンセルフ実習</b></p> <p>1. すべての調理作業を一人でやる“ワンセルフ実習”形式にて実施。</p> <p>2. [実施メニュー] スパゲッティニ アッラ カルボナーラ</p> <p>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第3回	<p><b>[1] - 3 ワンセルフ実習</b></p> <p>1. すべての調理作業を一人でやる“ワンセルフ実習”形式にて実施。</p> <p>2. [実施メニュー] オムライス ※オーソドックスヴァージョン &amp; アレンジヴァージョン</p> <p>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第4回	<p><b>[1] - 4 ワンセルフ実習</b></p> <p>1. すべての調理作業を一人でやる“ワンセルフ実習”形式にて実施。</p> <p>2. [実施メニュー] お好み焼き</p> <p>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第5回	<p><b>[1] - 5 ワンセルフ実習</b></p> <p>1. すべての調理作業を一人でやる“ワンセルフ実習”形式にて実施。</p> <p>2. [実施メニュー] 牛フィレ肉のステーキ</p> <p>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータル的な評価を発表。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第6回	<p><b>[2] 学外授業 [野外調理体験授業]</b></p> <p>1. 学外授業として、外部施設における“野外調理”の体験授業を実施。</p> <p>2. 炭・薪を使用しての加熱調理を体験。 ※飯ごうによる炊飯も実施</p> <p>3. [実施概要] 実施施設・形態・実施献立等、現在未定</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第7回	<p><b>[3] 特別授業 [イタリア料理特別授業]</b></p> <p>1. 外部事業所 (イタリア料理店) のシェフにお越しいただいた授業。</p> <p>2. 普段の授業では使用しない特殊食材を使用したメニューのデモンストレーション&amp;実習。</p> <p>3. [実施メニュー概要] パスタ料理1品・メイン料理1品・ドルチェ1品</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第8回	<p><b>学外授業 [テーブルマナー研修会 &lt;中華&gt;]</b></p> <p>1. テブルマナーの研修会として、外部施設 (ホテル等) において実施。</p> <p>2. 講師並びに料理を外部施設 (ホテル等) にご手配いただき、実際に会食をしながら実施。</p> <p>3. [実施内容] 中華のテーブルマナーについて学ぶ。</p>	学んだ内容をレポートにまとめて提出	1時間
第9回	<p><b>[4] - 1 卒業作品展の展示料理・お菓子&lt;展示料理・お菓子の作成ポイントについて&gt;</b></p> <p>1. 卒業作品展 [テーブルコーディネート作品展] の概要説明</p> <p>2. 展示料理・お菓子に関する概要とポイントの説明</p> <p>3. 展示料理・お菓子の作成方法のデモンストレーション</p> <p>4. 展示料理・お菓子の材料発注の際の注意事項</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第10回	<p><b>[4] - 2 卒業作品展の展示料理・お菓子 ※試作1回目</b></p> <p>1. 各グループのテーマに沿った展示用料理・お菓子の試作。</p> <p>2. 試作によって発見した改善点・変更点を次回の試作に反映。</p> <p>3. 改善・変更に伴う、材料発注の変更。</p> <p>4. 各グループ単位での作業分担の見直し・改善。</p>	学んだ内容をレポートにまとめて提出	1時間
第11回	<p><b>[4] - 3 卒業作品展の展示料理・お菓子 ※試作2回目</b></p> <p>1. 各グループのテーマに沿った展示用料理・お菓子の試作。</p> <p>2. 試作によって発見した改善点・変更点を次回の試作に反映。</p> <p>3. 改善・変更に伴う、材料発注の変更。</p> <p>4. 各グループ単位での作業分担の見直し・改善。</p>	学んだ内容をレポートにまとめて提出	1時間
第12回	<p><b>[4] - 4 卒業作品展の展示料理・お菓子 ※試作3回目</b></p> <p>1. 各グループのテーマに沿った展示用料理・お菓子の試作。</p> <p>2. 試作によって発見した改善点・変更点を次回の試作に反映。</p> <p>3. 改善・変更に伴う、材料発注の変更。</p> <p>4. 各グループ単位での作業分担の見直し・改善。</p>	学んだ内容をレポートにまとめて提出	1時間
第13回	<p><b>卒業作品展の展示料理・お菓子 ※本番作成</b></p> <p>1. 各グループのテーマに沿った、今までで一番完成度の高い本番用の展示料理・お菓子を作成。</p> <p>2. 各グループのメンバーが協力し合い、悔いの残らない素晴らしい本番用の展示用の料理・お菓子を完成させる。</p>	学んだ内容をレポートにまとめて提出	1時間
第14回	<p><b>実技テスト ・ 振り返り</b></p> <p><b>【実技テスト】</b> この授業内で学んだ献立・メニューの中から1品をチョイスし、その献立・メニューの調理作業を、すべて一人でやる“ワンセルフ実習”形式にて実施。</p> <p><b>【振り返り】</b> この授業内で学んだ献立・メニューについて、グループワーク形式での振り返りを実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間

第15回

**まとめ**

【まとめ】  
2年間の調理実習関連の授業で学んだ様々な内容、並びに2年間の短大生活等について、グループに分かれてのディスカッション（グループワーク）を実施。

授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング

1時間

授業科目名	<b>調理学演習 II</b>				
担当教員名	坂根 正史				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、調理学演習 I の授業において学んだ、調理を行う上で重要である調理作業の、“切り出し”、“調理法”、“調味料”、並びに“調味の仕方”等に関する基礎的な知識、並びに技術的なポイントをベースとして、よりレベルの高いテクニックを習得するべく、日々の反復実習（実践）を通して、使用食材や調理法などのバランスの取れた献立・メニューの作成、並びに限られた時間の中で料理をおいしく作るための知識・技術について学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	応用的な知識・技能	調理を行う上で重要である調理作業の、“切り出し”、“調理法”、“調味料”、並びに“調味の仕方”等に関する基礎的な知識・技能をベースとした、応用的な知識・技能について理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	応用的な知識・技能の実践力	調理を行う上で重要である調理作業の、“切り出し”、“調理法”、“調味料”、並びに“調味の仕方”等に関する基礎的な知識・技能をベースとした、応用的な知識・技能について実践することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		調理を行う上で重要である調理作業の、“切り出し”、“調理法”、“調味料”、並びに“調味の仕方”等に関する基礎的な知識・技能をベースとした、応用的な知識・技能について実践することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

実技テスト	80%	： 本授業で学んだ技術を活用し、ワンセルフ形式にて指定した料理の調理を行い、その料理の出来栄を独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講状況	10%	： 各回の授業への積極的な参加や、受講態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
レポートの提出状況	10%	： レポート課題に対する理解度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 [授業外学修課題] に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 また、[授業内マナー]、並びに[実習授業時の心得え]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜1限
場所：	フードコーディネーター研究室（本館3階）
備考・注意事項：	上記の時間帯以外にも研究室にいることはありますが、不在の場合には、メールでも対応します。 なお、メールを送信する場合は、件名に[学籍番号・名前]、本文に[内容]を明記するようにしてください。 ※メールアドレス sakane@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

授業外学修課題にかかると自らの時間



第1回	<p><b>【1】－1 基礎実技 ※切り出し</b></p> <p>1. [実施概要] 大根の切り出し2種 2. [実習内容] 大根の柱むき ・ 大根のせん切り ・ 大根サラダ</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第2回	<p><b>【1】－2 基礎実技 ※切り出し</b></p> <p>1. [実施概要] 大根の切り出し2種 ・ 日本料理の献立構成について 2. [実習内容] 大根の柱むき ・ 大根のせん切り ・ 大根サラダ 3. [その他] “食”に関するDVDの鑑賞①</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第3回	<p><b>【2】－1 基礎実技 ※魚の三枚卸し</b></p> <p>1. [実施概要] 魚(鯖)の三枚卸し 2. [実習内容] 魚(鯖)の三枚卸し ・ 鯖の照り焼き</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第4回	<p><b>【2】－2 基礎実技 ※魚の三枚卸し</b></p> <p>1. [実施概要] 西洋料理の献立構成について ・ 魚(鯖)の三枚卸し 2. [実習内容] 魚(鯖)の三枚卸し ・ 鯖の照り焼き 3. [その他] “食”に関するDVDの鑑賞②</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第5回	<p><b>【3】－1 総合演習</b></p> <p>1. 実施概要の説明 2. 献立調理課題&lt;A&gt;の練習 ※ 実施内容に関しては、今までの調理作業の状況から判断し、レベルアップの必要があると思われる内容をチョイスして実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第6回	<p><b>【3】－2 総合演習</b></p> <p>1. 献立調理課題&lt;B&gt;の練習 ※ 実施内容に関しては、今までの調理作業の状況から判断し、レベルアップの必要があると思われる内容をチョイスして実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第7回	<p><b>【3】－3 総合演習</b></p> <p>1. 献立調理課題&lt;C&gt;の練習 ※ 実施内容に関しては、今までの調理作業の状況から判断し、レベルアップの必要があると思われる内容をチョイスして実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第8回	<p><b>【3】－4 総合演習</b></p> <p>1. 基礎実技の練習 2. 指定調理課題&lt;A&gt;の練習 ※ 実施内容に関しては、今までの調理作業の状況から判断し、レベルアップの必要があると思われる内容をチョイスして実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第9回	<p><b>【3】－5 総合演習</b></p> <p>1. 基礎実技の練習 2. 指定調理課題&lt;B&gt;の練習 ※ 実施内容に関しては、今までの調理作業の状況から判断し、レベルアップの必要があると思われる内容をチョイスして実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第10回	<p><b>【3】－6 総合演習</b></p> <p>1. 基礎実技の練習 2. 指定調理課題&lt;C&gt;の練習 ※ 実施内容に関しては、今までの調理作業の状況から判断し、レベルアップの必要があると思われる内容をチョイスして実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第11回	<p><b>【3】－7 総合演習</b></p> <p>1. 指定調理課題&lt;A～C&gt;の中からアトランダムに1品チョイスし、献立調理の練習 ※ 実施内容に関しては、今までの調理作業の状況から判断し、レベルアップの必要があると思われる内容をチョイスして実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第12回	<p><b>【3】－8 総合演習</b></p> <p>1. 指定調理課題&lt;A～C&gt;の中からアトランダムに1品チョイスし、献立調理の練習 ※ 実施内容に関しては、今までの調理作業の状況から判断し、レベルアップの必要があると思われる内容をチョイスして実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第13回	<p><b>ビュッフェスタイル体験・学外授業</b></p> <p>1. 外部施設(ホテル)にて実施。 2. 講師、並びに料理を外部施設(ホテル)にご手配いただき、会食をしながら実施。</p>	学んだ内容をレポートにまとめて提出	1時間
第14回	<p><b>実技テスト ・ 振り返り</b></p> <p><b>【実技テスト】</b> この授業内で学んだ基礎実技から1種・指定調理から1種をチョイスし、すべて一人で行う“ワンセルフ実習”形式にて実施。 <b>【振り返り】</b> この授業内で学んだ基礎実技、並びに指定調理について、グループワーク形式での振り返りを実施。</p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第15回	<p><b>まとめ</b></p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間

【まとめ】  
この授業で学んだ様々な内容等について、グループに分かれてのディスカッション（グループワーク）を実施し、後期に実施する“卒業作品展 [テーブルコーディネート作品展]”に向けての決意を確認。

---

授業科目名	レストランサービス実習				
担当教員名	三田 卓司 ・ 柴田 勉				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「不可」

## 授業概要

本授業では、“レストランサービス論”の授業において、しっかりと体系付けた形で学んだカフェレストランから、フレンチ、及びイタリアンレストランでのサービスにおけるの基本的な知識を最大限に活用しながら、実際に仕器を扱った日々の反復実習（実践）においてしっかりと技術を習得し、“レストランサービス論”で学んだ知識と、“レストランサービス実習”で学んだ技術とが、しっかりとバランスがとれたサービスのプロとなるためのベースを構築することができる。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	レストランにおける飲料提供や接客の理論と方法についての知識・技能	理論〔座学〕と実践〔実習〕で高等技術の修得を図り、授業内にて少テストを行い、60点以上の得点を得ることができる。
汎用的な力		社会人としての挨拶ができる 接客ができる しゃべり方の基本ができる
1．DP6. 行動・実践		
2．DP6. 行動・実践		
3．DP6. 行動・実践		

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 実験、実技、実習
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内小テスト	： 本授業で学んだ技術に関して、授業の内容が実施のタイミングに至った際に小テストを実施し、独自のルーブリックに基づいて評価する。
60%	
振り返りテスト	： 本授業で学んだ技術に関する振り返りテストを実施し、独自のルーブリックに基づいて評価する。
20%	
受講状況	： 各回の授業への積極的な参加や、受講態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
20%	

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本HRS技能協会	・ 西洋料理 料飲接客サービス技法	・ 職業訓練教材研究会	・ 2017年

## 参考文献等

- ◆ 食材写真ファイル [配布資料]
- ◆ レストランサービススタンダードマニュアル [一般社団法人 日本ホテル・レストランサービス技能協会]

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
[授業外学修課題]に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
また、[授業内マナー]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	フードコーディネーター研究室（本館3階）のフードコーディネーターコース専任教員に相談し、対応を依頼。

## 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	接客五大用語と笑顔の作り方 お辞儀の「会釈」「敬礼」「最敬礼」と五大用語について	1時間
	次回の授業内容ページのテキスト読み込み	

第2回	<b>立ち居振る舞い</b>  「正しい座り方」「立ち方の基本」「スマートな歩き方」について全員で一斉に行う	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習、並びに次回の授業内容ページのテキスト読み込み	1時間
第3回	<b>什器備品の名称</b>  お辞儀の「会釈」「敬礼」「最敬礼」と五大用語を検証するレストランで使用する「シルバーウェア」「チャイナウェア」「グラスウェア」についてフルコースのセッティング	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習、並びに次回の授業内容ページのテキスト読み込み	1時間
第4回	<b>トレーの持ち方とプレートの持ち方</b>  フルコースのセッティングの筆記小テスト トレーの正しい持ち方と、トレーの上の食器の乗せ方についてプレートは料理の供卓の仕方と下げ時の2枚持について	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習、並びに次回の授業内容ページのテキスト読み込み	1時間
第5回	<b>サーバーの使い方</b>  トレーの持ち方、皿の2枚持ちの検証実技小テスト フランスパン、爪楊枝を使ってサーバーを箸の感覚で使いこなせるように指導 併せて、持ち廻りサービスについて	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習、並びに次回の授業内容ページのテキスト読み込み	1時間
第6回	<b>ホテルの朝食</b>  サーバーの使い方の検証実技小テスト アメリカンブレックファーストを中心にホテルの朝食について	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習、並びに次回の授業内容ページのテキスト読み込み	1時間
第7回	<b>オーダーテイク</b>  観点表を使いパンの持ち廻りサービスの検証実技小テスト アメリカンブレックファーストの注文の受け方について接客用語を用いたメモの取り方 不適切な接客用語のチェックなど	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習、並びに次回の授業内容ページのテキスト読み込み	1時間
第8回	<b>ウォーターピッチャーを使って水を注ぐ</b>  料理のプレートサービスの指導 ウォーターピッチャーの正しい使い方を実践 併せてプレートの3枚持ちを指導	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習、並びに次回の授業内容ページのテキスト読み込み	1時間
第9回	<b>ワインの抜栓とサービス</b>  朝食の実技試験に向けた指導 プロのワイン抜栓とサービスについて「パニエ」での抜栓も併せて	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習、並びに次回の授業内容ページのテキスト読み込み	1時間
第10回	<b>朝食のサービス【ご案内からお見送りまで】</b>  約9分間の課題に添ってイメージトレーニングと実践 サービスマンと客役別に流れの確認	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習、並びに次回の授業内容ページのテキスト読み込み	1時間
第11回	<b>【1】－1 実技トレーニング</b>  検証実技小テスト（朝食サービス）10分/人 ※ タイムを計測し、全員でロールプレイ	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習	1時間
第12回	<b>【1】－2 実技トレーニング</b>  検証実技小テスト（朝食サービス）10分/人 ※ タイムを計測し、全員でロールプレイ	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習	1時間
第13回	<b>【1】－3 実技トレーニング</b>  検証実技小テスト（朝食サービス）10分/人 ※ タイムを計測し、全員でロールプレイ ランチタイムの実技テストに向けた指導 サービスマンと客役別に流れの確認	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習、並びに次回の授業内容ページのテキスト読み込み	1時間
第14回	<b>【2】－1 実技トレーニング</b>  検証実技テスト（ランチサービス）10分/人 ※ タイムを計測し、全員でロールプレイ	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習	1時間
第15回	<b>【2】－2 実技トレーニング</b>  検証実技テスト（ランチサービス）10分/人 ※ タイムを計測し、全員でロールプレイ	今回の授業内容ページのテキスト読み込みによる復習	1時間

授業科目名	インテリアコーディネート論				
担当教員名	青木 順子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可」

### 授業概要

本授業ではインテリアコーディネートをするために必要な知識を学ぶ。インテリアの色彩・素材・空間に関する基礎知識を身に着けることで、今まで感性だけで評価していた空間構成を理論的に理解することが出来、それを土台として更に感性や個性を生かすことが出来るようになる。またインテリアに必要な図面の読み取りを習得して、心地よい暮らしの空間の提案や創造とフードコーディネーターとしてフードビジネスにおける快適な店舗空間の提案や創造ができる技術を学ぶ。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	インテリア・建築に関する知識	空間に使用されている材料や商品の名称が分かり、自らも空間を提案することができる
汎用的な力		学んだ知識を利用して空間の提案を完成することができる
1 . DP7. 完遂		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

受講状況	15%	： 受講態度（受講マナーや私語、携帯電話の使用などは減点）、授業で使用するプリントへの書き込みなどを独自のルールを基に総合的に評価する
課題	50%	： 7回の演習課題とレポートに対して各回5～8点、合計50点満点で評価する
振り返りテスト	35%	： 振り返りテストを行う。教科書などの持ち込みは認めない

### 使用教科書

#### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
宮後 浩	・ やさしいインテリアコーディネート	・ 学芸出版社	・ 2008年

### 参考文献等

インテリアの計画と設計／彰国社  
 インテリアコーディネーターハンドブック技術編／産業能率大学出版部  
 はじめてのインテリアコーディネート／学芸出版社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習する。次回授業の予習としてテキストに目を通し、既知の知識と未知の知識を判別し学習すべき内容を明確にしてから授業に出席すること。授業内マナーを守ること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業時の教室

### 授業計画

第1回

オリエンテーション、インテリアコーディネートとは

レポート課題、次回に該当するテキスト（P6）を確認し既知と未知を分ける

授業外学修課題にかかると自らの時間

4時間

	<p>講師紹介を行う。  今後の授業の進め方と評価の方法を説明する。  インテリアコーディネーターとは、インテリアコーディネーターの仕事とは何かを知る。  学生のインテリア用語の知識を調査する</p>		
第2回	<p><b>インテリアを構成する要素</b>  インテリアを構成する6要素について理解する。</p>	<p>次に該当するテキスト（P7）の通読</p>	4時間
第3回	<p><b>色彩① 色彩の基本</b>  色相・彩度・明度の基礎を学ぶ  それらの差異によっておこる様々な効果について理解する。配布された材料を使ってトーン図を作成する。  トーンとイメージが結びつくように演習を行う。  作成したトーン図にあうようにイメージワードを書き込む。</p>	<p>次に該当するテキスト（P10～P12）を通読</p>	4時間
第4回	<p><b>色彩② カラースキーム（色彩計画）</b>  室内空間を色彩計画する基本ルールを学ぶ。  自分でイメージを設定した空間を着色する。</p>	<p>課題（カラースキーム）。次回使用するプリントを通読</p>	4時間
第5回	<p><b>照明① 日本のあかり</b>  「陰影礼賛」より日本のあかりの歴史について学ぶ。陰影の魅力を探る。  照明器具の取り付け方による分類とその名称を理解する。</p>	<p>今回の該当テキストを通読（P62～P63）、課題（照明器具調査）</p>	4時間
第6回	<p><b>照明② 光源（ランプ）の種類、照明計画</b>  照明器具の光源（ランプ）の種類と特徴を学ぶ。  各室の照明計画の相違について学ぶ。</p>	<p>次回使用する資料の通読</p>	4時間
第7回	<p><b>照明③ 配線図面作成</b>  配線図面の記号を学ぶ。あたえられた課題の部屋に照明を計画し、図面に表記する。</p>	<p>課題（製図）。今回の該当テキスト（P29～P39）の通読</p>	4時間
第8回	<p><b>インテリアの仕上材① 仕上表</b>  仕上げ表の見方を学ぶ。仕上材選定の注意点を理解する。  内装（床・壁・天井）に使用される種々材料を知る。</p>	<p>次回資料プリントの通読</p>	4時間
第9回	<p><b>インテリアの仕上材② 木</b>  日本の森林の現状を知る。仕上材に使用される多種多様な天然の木材の特徴について理解する。  サンプルに触れることで印象を深める仕上げ表の見方を学ぶ。</p>	<p>次回資料プリントの通読。課題（木の利用）</p>	4時間
第10回	<p><b>インテリアの仕上材③ 畳</b>  畳の歴史、使われ方、自然素材ゆえの長所・欠点を理解する。</p>	<p>課題（畳の利用）</p>	4時間
第11回	<p><b>インテリアの仕上材③ 左官・クロス</b>  伝統的塗り壁の特徴を知る。  クロスが普及した原因と長所を考える。  サンプルを見て触ることで印象を深める。</p>	<p>今回の該当テキスト（P25～P28）を通読する</p>	4時間
第12回	<p><b>インテリアの構成① 建具</b>  ドア・ふすま・障子など開口部の種類と特徴を学ぶ。</p>	<p>次回該当テキスト（P56）を通読する</p>	4時間
第13回	<p><b>インテリアの構成② 和室</b>  伝統的な和室の歴史・構成について学ぶ。</p>	<p>次回該当箇所のテキスト（P45～P47）を通読、課題レポート</p>	4時間
第14回	<p><b>インテリアの構成③ 窓・ウインドウトリートメント</b>  窓サッシの種類、それを装飾するカーテン・ロールスクリーン・ブラインドなどの種類・使用方法・特徴について学ぶ。</p>	<p>今回の授業の復習。今回の総まとめにむけて今までの資料プリントやノートを読み返ししておく</p>	4時間
第15回	<p><b>振り返りテストと解説</b>  振り返りテストを行い、解説を行う。</p>	<p>テキスト、資料プリント、ノートを読み返し、今期学んだことの総復習を行う</p>	4時間

授業科目名	<b>公衆衛生・法規</b>				
担当教員名	瀬川 悠紀子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可」

### 授業概要

公衆衛生は住民の疾病予防と健康保持増進を目的とする。少子化や高齢化、生活習慣病など、わが国が抱える公衆衛生にかかわる様々な問題を理解し、将来実践的に応用できる能力を身に付けることを目標とする。公衆衛生の歴史から具体的な最新のデータや関連法規を学ぶ事により、社会の現状を正しく理解し視野を広げ、フードコーディネーターとしての職務を遂行するのにふさわしい公衆衛生および衛生法規の知識を得ることができる。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	健康問題に関する知識	我が国が抱える健康問題を知り、対策を考えることができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		観点を定めて我が国の健康に係る問題点を把握することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
各回の復習テスト 10%	: 各回10点満点とする。得点の高いもの7回分の平均点で評価する。
各回のまとめテスト 10%	: 各回10点満点とする。得点の高いもの7回分の平均点で評価する。
期末試験 40%	: 本試験期間中に試験を行う。
授業態度 30%	: 授業内での積極性及び取り組み状況で評価する。
課題レポート 10%	: 授業内で課題レポートを出し、10点満点で評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本ホテル・レストランサービス技能協会	西洋料理 料飲接客サービス技法	財団法人職業訓練教材研究会	2017年

### 参考文献等

参考文献は授業内に随時紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業の前後以外は、メールにて質問をうけます(アドレス：yukin.113@outlook.jp) メールには氏名と学籍番号を必ず入れてください。

### 授業計画

第1回	公衆衛生概論	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
	公衆衛生学がどのような学問かを学ぶ。		

第2回	<b>公衆衛生学の歴史(1) ～世界～</b> 世界の公衆衛生学の成り立ちを学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第3回	<b>公衆衛生学の歴史(2) ～日本～</b> 我が国の公衆衛生学の成り立ちを学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第4回	<b>公衆衛生の現状</b> 衛生行政を学ぶ。 公衆衛生の現状を学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第5回	<b>公衆衛生に関する主な法規</b> 食生活と深く関係する法規について、最近起こった具体的事件とともに、法律の重要性を学び、食品を扱う職業として必要な知識を身につける。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第6回	<b>衛生統計(人口統計、疾病統計、その他の統計)</b> 公衆衛生活動の手法である統計を学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第7回	<b>感染症とは</b> 感染症とは(感染症の3要因と予防の定義について)	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第8回	<b>感染症と公衆衛生</b> 感染症の分類と、感染症が減少した背景に公衆衛生の発達があることを学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第9回	<b>感染症予防</b> 感染症を予防するための具体的な対策を考える。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第10回	<b>労働衛生とは</b> 労働衛生とはなにかについて知る。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第11回	<b>作業環境、作業条件</b> 作業環境や、条件が健康に影響することを知る。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第12回	<b>職業病について</b> 職業病とはなにかを知る。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第13回	<b>労働災害</b> 労働災害とはなにかを知る。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第14回	<b>労働安全衛生対策について</b> 安全衛生管理体制うち労働安全衛生に関する法令について学ぶ。	テキストの該当ページを読んでおく。配布プリントを復習する。	4時間
第15回	<b>公衆衛生とその関連法規についての総括</b> 第1～14回の学習内容についての練習問題を行い知識の習得を確認する	テキストと配布プリントを復習する。	4時間



授業科目名	<b>製菓実習Ⅱ</b>				
担当教員名	坂根 正史				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「可・不可」

### 授業概要

本授業では、製菓実習Ⅰの授業において反復実習（実践）を行って学んだ、基本的なお菓子の調理工程、及び調理技法（テクニック）、並びに、それらの基本的なお菓子の調理技法の応用、並びにそれらを組み合わせたワンランク上のお菓子の作成テクニックをベースとして、それらを更にレベルアップさせるべく、日々の反復実習（実践）を通して、ケーキショップで販売されている本格的なお菓子の作成ができるレベルの、製菓に関する知識・技術の応用について学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	『製菓』に関する知識・技能の応用	菓子の基本的な調理工程、並びに調理技法（テクニック）に関する知識・技能の応用を理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	『製菓』に関する知識・技能の実践力の応用	菓子の基本的な調理工程、並びに調理技法（テクニック）に関する知識・技能の応用を実践することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		菓子の基本的な調理工程、並びに調理技法（テクニック）に関する知識・技能の応用を実践することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

実技テスト	80%	： 本授業で学んだ技術を活用し、ワンセルフ形式にて指定したお菓子の作成を行い、そのお菓子の出来栄を独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講状況	10%	： 各回の授業への積極的な参加や、受講態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。
レポートの提出状況	10%	： レポートの提出状況

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 [授業外学修課題] に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 また、[授業内マナー]、並びに[実習授業時の心得え]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜1限
場所：	フードコーディネート研究室（本館3階）
備考・注意事項：	上記の時間帯以外にも研究室にいることはありますが、不在の場合には、メールでも対応します。 なお、メールを送信する場合は、件名に「学籍番号・名前」、本文に「内容」を明記するようにしてください。 ※メールアドレス sakane@osaka-seikei.ac.jp ？

### 授業計画

第1回 [1] - 1 洋菓子の基本の復習

授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング

授業外学修課題にかかる目安の時間

1時間

	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施概要の説明</li> <li>2. 洋菓子の基本の復習</li> <li>3. [実施内容] “ジェノワーズ (スポンジ生地)” の作成方法 [共立て法] を復習。</li> <li>4. すべての調理作業を一人で行う “ワンセルフ実習” 形式にて実施。</li> <li>5. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</li> </ol>		
第2回	<p><b>[1] - 2 洋菓子の基本の復習</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施概要の説明</li> <li>2. 洋菓子の基本の復習</li> <li>3. [実施内容] “ジェノワーズ (スポンジ生地)” の作成方法 [別立て法] を復習。</li> <li>4. すべての調理作業を一人で行う “ワンセルフ実習” 形式にて実施。</li> <li>5. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第3回	<p><b>[2] - 1 洋菓子の基本の応用</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の応用を実施</li> <li>2. [実施内容] “ヘーゼルナッツのタルト” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第4回	<p><b>[2] - 2 洋菓子の基本の応用</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の応用を実施</li> <li>2. [実施内容] “タンバル・エリーゼ” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第5回	<p><b>[2] - 3 洋菓子の基本の応用</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の応用を実施</li> <li>2. [実施内容] “洋梨のタルト” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第6回	<p><b>[2] - 4 洋菓子の基本の応用</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の応用を実施</li> <li>2. [実施内容] “ティラミス” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第7回	<p><b>[2] - 5 洋菓子の基本の応用</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の応用を実施</li> <li>2. [実施内容] “バリプレスト” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第8回	<p><b>[2] - 6 洋菓子の基本の応用</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の応用を実施</li> <li>2. [実施内容] “ミルフィーユ” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第9回	<p><b>[2] - 7 洋菓子の基本の応用</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の応用を実施</li> <li>2. [実施内容] “フルーツ・タルト” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第10回	<p><b>[2] - 8 洋菓子の基本の応用</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の応用を実施</li> <li>2. [実施内容] “洋梨のシャルロット” を作成。</li> <li>4. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第11回	<p><b>[2] - 9 洋菓子の基本の応用</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の応用を実施</li> <li>2. [実施内容] “フッシュ・ド・ノエル” を作成。</li> <li>3. すべての調理作業を一人で行う “ワンセルフ実習” 形式にて実施。</li> <li>4. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第12回	<p><b>[2] - 10 洋菓子の基本の応用</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋菓子の基本の応用を実施</li> <li>2. [実施内容] “ガトー・オペラ” を作成。</li> <li>3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第13回	<p><b>[3] - 1 ケーキバイキングスタイル体験授業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 班単位でクラス全員分のお菓子を1品調理。</li> <li>2. メニューの提案から班単位で実施。</li> <li>3. デモンストレーションは実施せずに全体ミーティング後すぐに調理を開始し、決められた時間までにお菓子を仕上げ、試食を実施。</li> </ol>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第14回	<p><b>[3] - 2 ケーキバイキングスタイル体験授業</b></p>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間

	<p>1. 班単位でクラス全員分のお菓子を1品調理。  2. メニューの提案から班単位で実施。  3. デモンストレーションは実施せずに全体ミーティング後すぐに調理を開始し、決められた時間までにお菓子を仕上げ、試食を実施。</p>		
第15回	<p><b>実技テスト ・ 振り返り</b></p> <p>【実技テスト】  この授業内で学んだ基本的なお菓子の作成技術の中から1つをチョイスし、その基本的なお菓子の作成技術の調理作業を、すべて一人で行う“ワンセルフ実習”形式にて実施。</p> <p>【振り返り】  この授業内で学んだ基本的なお菓子について、グループワーク形式での振り返りとまとめを実施。</p>	<p>授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング</p>	1時間

授業科目名	フードビジネス演習				
担当教員名	土田 彩華				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示「不可」

### 授業概要

多岐にわたるフードコーディネーターとしての仕事の全体像や、外食産業、食空間イベントを中心とした各仕事の分野の基本的知識を学びます。女性マーケティングや、実践的な企画力・プレゼンテーションテクニック・コーディネートやディスプレイの演出力、今後ますます需要が見込まれるパーティー企画・演出・プロデュース力を学び、実践で役立つ力を養います。また学外見学ではキッチンメーカーショールームにて、時代の流れや変化に敏感な企業の戦略や業界の流れを商品を見て実感し学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	フードビジネス論	プリントやテキストを使用し、フードビジネスに必要な基礎知識、理論を学び理解する。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	企画力・プレゼンテーション力・演出力	商品分析、企画書作成し、プレゼンテーションを行い実践の中で応用が行えるように、またパーティー企画ではの立案・演出能力・プロデュース力を身につける。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		自ら課題、テーマを発見する力をつける
2 . DP5. 計画・立案力		企画を組み立てる力を付ける。グループ製作課題では協調性、ヒアリング力、提案力を養う。
3 . DP6. 行動・実践		計画能力とそれを実現する行動力、積極性を身につける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
振り返りテスト	： 授業内で実施する振り返りテストで基礎知識・理論の理解度を評価 30%
課題提出	： 企画力と組立て力を評価 20%
プレゼンテーション力	： 内容・校正・話し方を評価 20%
授業態度	： 授業への積極性、グループ内での協調性、全体の取組状況の評価 30%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本フードコーディネーター協会	フードコーディネーター教本3級資格認定試験対応テキスト	柴田出版	2017年

### 参考文献等

TALK食空間コーディネーターテキスト3級 / PERFECT PRESENTATION / 現代広告の心理術101

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後  
場所： 授業教室

授業計画		授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回	<b>フードコーディネーター概論</b> フードコーディネーターが関わる仕事の範囲、業界の現状とビジネスに求められる資質を考える	身近なフードの仕事を検索する 1時間
第2回	<b>食空間コーディネーターとデザイン</b> 食空間演出方の基本的な考えを学ぶ。 グループ実習にて洋食・和食の基本セッティングを作り、それをもとにプランニングシートを作成する。写真撮影も行う。	ショップの空間演出をリサーチする 1時間
第3回	<b>食空間演出法</b> 食空間に求められる色、スタイル、照明などの演出方法を学び、外食産業食など食に関わる企業での演出を考える。	身近なレストランやカフェのインテリアをリサーチする 1時間
第4回	<b>商品分析と企画</b> 市場のマーケティングに置いて女性ユーザーの決定権の影響を知る。商品分析し企画提案する方法を学ぶ。	身近な商品分析し販売企画を考える 1時間
第5回	<b>企画書作成法</b> 販売促進の企画書作成方法を学び、前回分析した商品の企画書を作成する。	企画書を完成させ提出 1時間
第6回	<b>プレゼンテーション</b> プレゼンテーションテクニックを学び、実際に企画書を発表する。	プレゼンテーションの練習を行う 1時間
第7回	<b>ディスプレイ理論</b> ディスプレイの基本理論を知り、販売促進のためのディスプレイ企画を考える グループ実習にて、企画を選びディスプレイを作成する。写真撮影も行う。	課題提出用の用紙で企画を完成させる 1時間
第8回	<b>学外実習</b> キッチンメーカーショールームにて、時代の流れや変化に敏感な企業の戦略や業界の流れを商品を見て実感し学ぶ。	課題提出用の用紙で企画を完成させる 1時間
第9回	<b>パーティー企画</b> 宴会とパーティーの違いを学ぶ。パーティーについての企画立案法を知る。 ホームパーティー企画を考える。	課題提出用の用紙で企画を完成させる 1時間
第10回	<b>ホームパーティー企画実践</b> グループ内にて企画のプレゼンテーションを行い、選ばれた企画をテーブルコーディネーターで製作し発表する。写真撮影も行う。	授業で製作したコーディネーター企画を所定の用紙にまとめる 1時間
第11回	<b>レセプションパーティー企画</b> レセプションパーティーについて学び、レセプションパーティー企画を考える。	課題提出用の用紙で企画を完成させる 1時間
第12回	<b>レセプションパーティー企画実践</b> グループ内にて企画のプレゼンテーションを行い、選ばれた企画をテーブルコーディネーターで製作し発表する。写真撮影も行う。	課題提出用の用紙で企画を完成させる 1時間
第13回	<b>新メニュー開発とプレゼンテーション</b> グループで、ライフスタイルや年齢による食の傾向を分析し、新メニューの開発の企画案を出しプレゼンテーションをする。	課題提出用の用紙で企画を完成させる 1時間
第14回	<b>食の催事、季節のフェア企画</b> グループで、食の催事や季節のレストランフェアの企画案を出しプレゼンテーションをする。	課題提出用の用紙で企画を完成させる 1時間
第15回	<b>フードビジネス論のまとめ、振り返りテストとその解説</b> これまでのまとめ。 振り返りテストとその解説を行う。	今期授業内容の総復習をする 1時間

授業科目名	フードマネジメント論				
担当教員名	山岡 正弘				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可・不可」

### 授業概要

1. フードサービス産業論を理解し、フードサービスの変遷と業界の事情理解した上でマネジメントについて理解する。
2. フードマネジメントにおける重要な要素となる顧客要素は何かを理解しその活用方法を身に付ける。
3. フードマネジメントに必要な運営管理のポイントである、利益管理、原価管理、人件費管理の知識を身につける。
4. スタッフ教育の基礎を理解し活用方法を身につける。
5. フードマネジメントに必要な計数管理を理解し活用方法を身につける。
6. 業務改善提案書作成方法を身につける。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	マネジメントに必要な基礎専門知識	現場でのマネジメントサポートが可能となる
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		理論的に課題発見ができる
2 . DP5. 計画・立案力		習得した知識・技能を実践の中で応用することが出来る

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

振り返りテスト	70%	： フードマネジメント基礎知識と基礎能力の習熟度を授業内で実施する振り返りテストで評価する。
小テスト	30%	： 授業期間中に振り返りテストを実施し、理解度の評価をする。未提出者は減点とする。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

新版フードコーディネーター教本／著者名1：日本フードコーディネーター協会編／出版社名1：柴田書店  
 これで機会損失が防げる飲食店・経営数字の使い方／著者名2：日本フードコーディネーター協会編／出版社名2：柴田書店  
 「飲食店をやりたい」と思ったら読む本（日本実業出版社）  
 「プロのためのフードコーディネーション技法」日本フードコーディネーター協会編（平凡社）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後  
 場所： 授業の教室

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>フードサービス産業概論</b>  ・ 江戸時代から現在に至るまでのフードサービス産業の変遷を理解する。 ・ フードコーディネーター教本と配布資料を参照する。 ・ 理解度確認のための小テスト実施。	フードコーディネーター教本 第二節 現代フードサービス産業の歴史及び食の歴史と文化と風土を閲覧 4時間
第2回	<b>レストラン運営における顧客満足とは</b>	フードコーディネーター教本顧客づくりの販促計画 顧客づくりのポイントの閲覧 4時間

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食店における顧客満足要素について具体的な事案をもとに理解する。</li> <li>・配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>		
第3回	<b>レストラン運営におけるQSCの必要性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗運営の必要要素であるQSCの重要性について理解する。</li> <li>・配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>	日本マクドナルド株式会社HPの閲覧	4時間
第4回	<b>レストラン運営に必要なスタッフ教育</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やる気を起こすスタッフ教育について理解する。</li> <li>・配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>	マニュアルの意味について調べておく	4時間
第5回	<b>レストラン運営における損益計算書の作成方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食店における利益の管理の基礎である損益計算書の作り方を理解し、実際に計算をする。</li> <li>・フードコーディネーター教本と配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>	フードコーディネーター教本 第三節 経営の基礎知識の閲覧。固定費と変動費について具体的な勘定科目を調べておく	4時間
第6回	<b>レストラン運営における人件費管理（１） 人件費の基本</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人件費の算出方法を理解し、実際に計算する。</li> <li>・配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>	身近な飲食店での席数とその時点のスタッフ人数を調べておく	4時間
第7回	<b>レストラン運営における人件費管理（２） 人件費の応用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正人件費率とFL比率を理解する。</li> <li>・配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>	身近な飲食店での席数とその時点のスタッフ人数を調べておく	4時間
第8回	<b>基本的な原価管理（１） 原価管理の基本</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原価の算出方法を理解する。</li> <li>・配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>	業種・業態別の原価率を調べておく	4時間
第9回	<b>基本的な原価管理（２） 原価管理の応用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正原価率及び異常値に対する対策方法を理解する。</li> <li>・配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>	業種・業態別の原価率を調べておく	4時間
第10回	<b>効果的な販売促進とは（１） 販売促進の基本</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者の購買行動を理解する。</li> <li>・フードコーディネーター教本と配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>	フードコーディネーター教本 第8節 販売促進の閲覧。飲食店関係のチラシ及びパンフレットを2部以上用意しておく	4時間
第11回	<b>効果的な販売促進とは（２） 販売促進の応用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売促進の目的と計画立案を理解する。</li> <li>・フードコーディネーター教本と配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>	フードコーディネーター教本 第8節 販売促進の閲覧。飲食関係のチラシ及びパンフレットを2部以上用意しておく	4時間
第12回	<b>効果的なメニュー設計</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンセプトに沿った品揃えと価格設定を理解する。</li> <li>・フードコーディネーター教本と配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>	フードコーディネーター教本 第8節 販売促進の閲覧。	4時間
第13回	<b>効果的なメニューリニューアル</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メニューリニューアルの目的・検討項目・チェック項目・システム作りを理解する。</li> <li>・フードコーディネーター教本と配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>	フードコーディネーター教本 第8節 販売促進の閲覧。	4時間
第14回	<b>効果的なショップリニューアル</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改装計画立案を理解する。</li> <li>・配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> </ul>	飲食店では何年でリニューアルすればよいか考えておく	4時間
第15回	<b>効果的な業務改善提案書の作成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善提案書作成の為の課題の発見と改善手順を理解する。</li> <li>・配布資料を参照する。</li> <li>・理解度確認のための小テスト実施。</li> <li>・振り返りテストの実施とその解説</li> </ul>	効果的なリニューアルはどこがベストをまとめておく	4時間